

城地免西遺跡

—県営経営体育成基盤整備事業（平野新地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2024

新潟県長岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、新潟県長岡市寺泊田尻地内に所在する城地免西遺跡の発掘調査報告書である。
2. 今回の調査は、県営経営体育成基盤整備事業（平野新地区）に伴うものであり、令和2年度に長岡市教育委員会が試掘確認調査を行い、本発掘調査は令和4年度に、報告書作成は令和4・5年度に長岡市が新潟県長岡地域振興局から委託を受けて実施した。
3. 試掘確認調査に要した費用は文化財保護部局である長岡市教育委員会が負担し、国庫及び県費の補助交付金を受けた。本発掘調査に要した費用は、事業の原因者である新潟県長岡地域振興局が費用の95%を負担した。また、長岡市が費用の5%を負担し、国庫及び県費の補助交付金を受けた。
4. 調査・整理体制は以下のとおりである。

（試掘確認調査）令和2年度

調査主体 長岡市教育委員会（教育長 金澤俊道）
事務局 長岡市教育委員会科学博物館（館長 小熊博史）
調査担当 加藤由美子（長岡市教育委員会科学博物館主査）

（本発掘調査）令和4年度

調査主体 長岡市教育委員会（教育長 金澤俊道）
事務局 長岡市教育委員会科学博物館（館長 小熊博史）
調査担当 加藤由美子（長岡市教育委員会科学博物館主査）
発掘調査員 南波 守（株式会社大石組）
調査補助員 遠藤昌代（株式会社大石組）
現場代理人 野村一也（株式会社大石組）

（報告書作成）令和4・5年度

調査主体 長岡市教育委員会（教育長 金澤俊道）
事務局 長岡市教育委員会科学博物館（館長 小熊博史）
整理担当 加藤由美子（長岡市教育委員会科学博物館主査）
整理調査員 南波 守（株式会社大石組）（令和4年度）
整理補助員 遠藤昌代（株式会社大石組）（令和4年度）

5. 発掘調査で出土した遺物及び、測量図面・写真等の記録類は、長岡市教育委員会で保管している。
6. 遺物の注記は、遺跡略号「JJN」の後、調査区（トレンチ）・遺構名（出土位置）・層位等を記した。
7. 本書の執筆は以下の者で分担して行い、編集は加藤由美子の指導の下、南波守が行った。

第Ⅰ～Ⅲ章 加藤由美子（長岡市教育委員会）

第Ⅳ・Ⅴ章 南波 守（株式会社大石組）

8. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の方々より多大なるご教示・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げます。（順不同・敬称略）

三島郡北部土地改良区 寺泊田尻集落の皆様 新潟県長岡地域振興局
新潟県観光文化スポーツ部文化課 公益社団法人長岡市シルバー人材センター

目 次

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境	1
1 遺跡の概要	
2 周辺の遺跡	
第Ⅲ章 調査の方法と経過	3
1 試掘確認調査	
2 本発掘調査と整理作業	
第Ⅳ章 調査成果	3
1 調査区の設定と基本層序	
2 遺構	
3 遺物	
第Ⅴ章 まとめ	8
参考文献	

挿図・表目次

第 1 図 遺跡の位置 (1/250,000)	1	第 1 表 周辺の遺跡一覧	2
第 2 図 周辺の遺跡 (1/50,000)	2	第 2 表 基本層序	4
第 3 図 調査位置図 (1/5,000)	3	第 3 表 土器分類基準表	6
第 4 図 グリッド設定図と基本層序	4	第 4 表 遺構観察表	9
第 5 図 掘立柱建物復元図	6	第 5 表 遺物観察表 土錘・砥石・羽口	9
		第 6 表 遺物観察表 木製品	9
		第 7 表 遺物観察表 銭貨	9
		第 8 表 遺物観察表 土器・円筒形土製品 (1)	10
		第 9 表 遺物観察表 土器・円筒形土製品 (2)	11
		第 10 表 遺物観察表 土器・円筒形土製品 (3)	12
		第 11 表 遺物観察表 土器・円筒形土製品 (4)	13

図版目次

図版 1 遺構全体図	図版 11 遺物実測図 (6) その他の遺物
図版 2 遺構分割図 (1)	図版 12 調査写真 (1)
図版 3 遺構分割図 (2)	図版 13 調査写真 (2)
図版 4 遺構詳細図 (1)	図版 14 調査写真 (3)
図版 5 遺構詳細図 (2)	図版 15 調査写真 (4)
図版 6 遺物実測図 (1) SK28・SD1・SD15・P9・ P17・SX13	図版 16 遺物写真 (1) SK28・SD1・SD15・P9・ P17・SX13
図版 7 遺物実測図 (2) SX13・遺構外	図版 17 遺物写真 (2) SX13・遺構外
図版 8 遺物実測図 (3) 遺構外	図版 18 遺物写真 (3) 遺構外
図版 9 遺物実測図 (4) 遺構外	図版 19 遺物写真 (4) 遺構外・その他の遺物
図版 10 遺物実測図 (5) 遺構外	

第Ⅰ章 調査に至る経緯

平成29年1月、新潟県長岡地域振興局（以下、「振興局」）と長岡市教育委員会（以下、「市教委」）は、長岡市寺泊で計画された県営経営体育成基盤整備事業（平野新地区）地内における埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。県営経営体育成基盤整備事業（平野新地区）は全事業面積が152.2haで事業対象地には複数の周知の遺跡が存在する。市教委は事業実施に当たって事業地内における事前の試掘確認調査が必要であると判断し、その旨を振興局に伝えた。振興局はこれを了承し、事業採択後に調査を行うことで両者が合意した。令和2年度に県営経営体育成基盤整備事業（平野新地区）は事業採択され、市教委は令和2年9月から対象地内での試掘確認調査を開始した。調査の結果、城地免東遺跡（長岡市No.1499）、城地免西遺跡（長岡市No.1500）が新たに発見された。令和3年2月、市教委と振興局は再度協議を持ち、遺物が少量だった城地免東遺跡は市教委が工事立会を行い、遺物量が多く遺跡の面積も広範囲な城地免西遺跡は工事に先立ち本発掘調査を行うことで合意した。なお、工事立会並びに本発掘調査は排水路・パイプライン部分に対して行い、その他の面工事部分については城地免西遺跡・城地免東遺跡ともに盛土による遺跡の保護を行うことで合意した。振興局は令和4年4月18日付け長振農第3025号で城地免西遺跡における土木工事の通知を新潟県へ提出し、新潟県から振興局へ同年5月6日付け文第249号の2で城地免西遺跡の発掘調査の指示が出された。これに伴い振興局と長岡市は「城地免西遺跡に関する協定書」を締結した。ここでは市教委が調査主体となり令和4年度内に発掘調査を実施すること、整理作業及び報告書刊行は調査終了の翌年度中とすること、事業にかかる費用は振興局が事業費全体の95%、長岡市が5%を負担することが明記された。令和4年6月10日、両者間で城地免西遺跡発掘調査の費用負担契約を締結し、同年7月、市教委は本発掘調査に着手した。

第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境

1 遺跡の概要

城地免西遺跡は、信濃川の左岸に迫る西山丘陵の東側丘陵の北端部近く、長岡市寺泊田尻地内に所在する（第1図）。丘陵の北端は小さな谷がいくつも入り組んだ羊歯状の地形を呈し、遺跡は田んぼに面した丘陵の裾部に位置する。この背後の丘陵が障壁となり遺跡周辺は冬の強風を受けにくい。標高は22.0mで、過去の信濃川の洪水データを見ると遺跡は浸水被害を免れることができる高さにある。

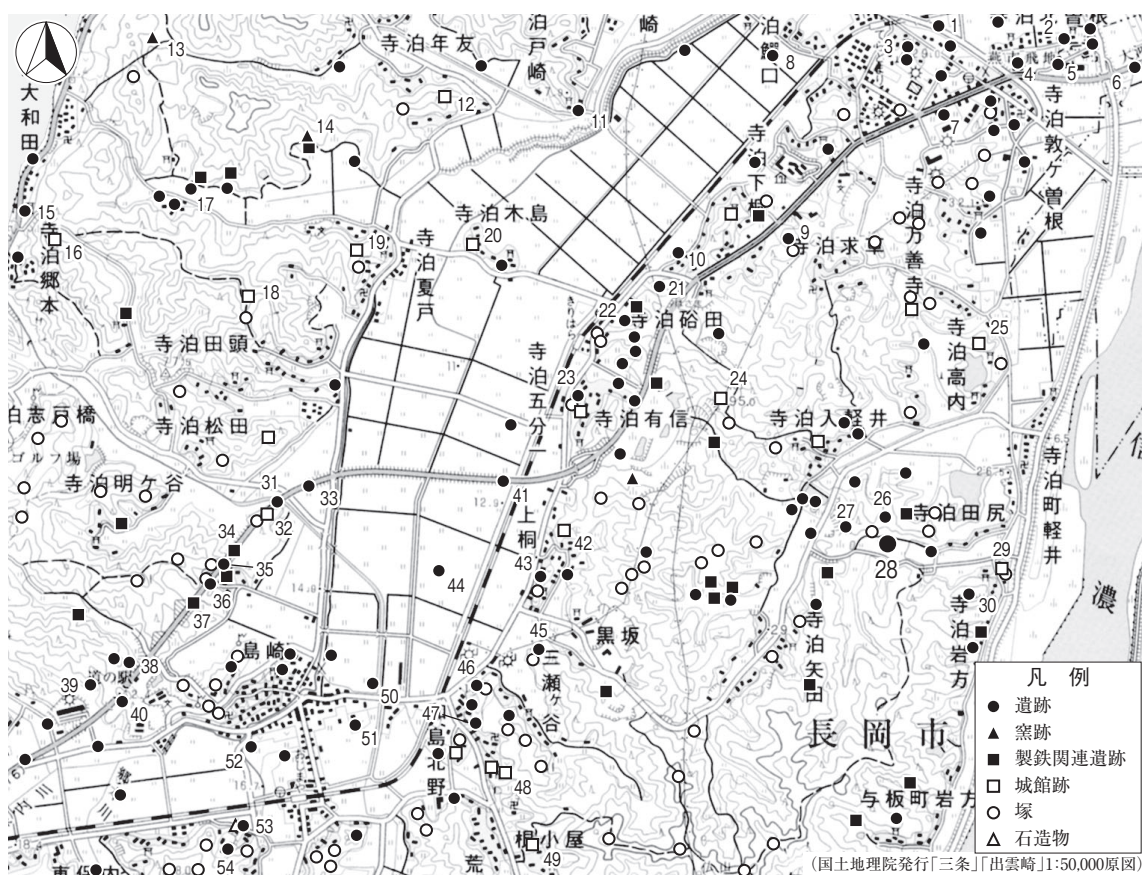
城地免西遺跡は令和2年度に市教委が行った試掘調査で発見され、土師器・須恵器を伴う安定した古代の包含層が確認された。遺跡名にある「城地免」は遺跡一帯をさす小字である。



第1図 遺跡の位置（1/250,000）

2 周辺の遺跡

遺跡が立地する田尻集落周辺で最も古い遺跡は、縄文時代中期中葉から後葉の寺泊大平遺跡(30)である。寺泊地域では出土例が少ない火焰型土器が採集されている。弥生時代には後期前半に西山丘陵上に、丹後地方の墓制を色濃く感じさせる方形台状墓の屋鋪塚遺跡(27)が出現する。同じ丘陵上には、古墳時代前期の大久保古墳群(26)も存在し、田尻を含めた大河津地域の古代以前の歴史を考えるうえで、核となる遺跡が集中する。大久保古墳群は前方後方墳2基・方墳3基からなり、当時継続的な造墓活動があったことが認められるが、その母集落はまだ発見されていない。古代においては顕著な遺跡はこれまでに確認されていなかったが、今後は本遺跡がその代表となるだろう。中世には金ヶ崎城跡(29)が信濃川に面した丘陵の先端部に出現する。『温故の葉』には「延元二年に瓜生判官の一族が築城」とあるが、詳細は不明である。



第2図 周辺の遺跡 (1/50,000)

第1表 周辺の遺跡一覧

1	京田	古代	14	夏戸窯跡	古代	29	金ヶ崎城跡	中世(室町)	42	上桐城跡	中世(室町)
2	野起	縄文・弥生・古墳	15	セツ石	古代	30	大平	縄文	43	上桐神社裏	弥生・古代・中世
3	横滝山	縄文・弥生・古墳・古代	16	伊那胡城跡	中世(室町)	31	奈良崎	縄文・弥生・古墳・古代・中世	44	上新田	古墳・古代
			17	吉竹北	古代				45	松ノ脇	弥生・古墳
4	太屋敷	古代	18	田頭城跡	中世(室町)	32	奈良崎城跡	中世(南北朝)	46	北野大平	弥生・古代
5	北曾根	古代	19	夏戸城跡	中世(戦国)	33	大武	縄文・弥生・古墳・古代・中世	47	和島中道	古代
6	五千石	縄文・弥生・古墳・古代	20	木島岩跡	中世(室町)				34	姥ヶ入製鉄	古代・中世
7	湯端	縄文	21	山王	縄文	35	姥ヶ入南	古代・中世	49	根小屋城跡	中世(南北朝～戦国)
8	古屋敷	弥生・古墳	22	小谷地割	古代	36	妙満寺跡	古代・中世	50	川東	弥生・古墳・古代・中世
9	下桐松葉	縄文	23	五分一稲葉	縄文・古墳・古代	37	立野大谷製鉄	古代・中世	51	浦反甫東	古墳・古代・中世
10	土手上	古墳・古代	24	五分一城跡	中世(室町)	38	山田郷内	古代・中世	52	浦反甫西	古代・中世
11	熊ノ森	縄文	25	高内城跡	中世(南北朝)	39	吉沢	古代・中世	53	下ノ西	古代・中世
12	年友城跡	中世(室町)	26	大久保古墳群	古墳	40	八幡林	古代・中世	54	北辰中学校	古代
13	中道窯跡	古代・中世	27	屋鋪塚	弥生	41	門新	弥生・古墳・古代			
			28	城地免西	古代						

第三章 調査の方法と経過

1 試掘確認調査

城地免西遺跡が含まれる平野新地区の試掘確認調査は、令和2年9月30日から同年10月20日に実施した。事業対象地に141か所のトレンチを設定し、うち城地免西遺跡の範囲として6か所のトレンチで古代の遺物包含層を確認した。詳細な成果・内容については『令和2年度長岡市内遺跡調査報告書』[加藤2021]を参照いただきたい。

2 本発掘調査と整理作業

本発掘調査は令和4年7月4日から同年8月31日にかけて実施した。7月4日に重機による表土除去を開始し、同7日から人力による本格的な発掘作業に着手した。始めに排水と土層観察のためのサブトレンチを設定した。調査区の大部分で近現代の耕地整理に伴う攪乱が認められ、近世から近現代の耕作土層に古代の包含層由来の微細な遺物が混入している状況が認められた。基本層序は観察ポイントを調査区内に等間隔に設定し検討を行った。そのなかで遺跡は予想以上に後世の攪乱の影響を受けていることが判明した。調査区西寄りで検出した性格不明遺構SX13は、周辺の包含層の残りも良く多くの遺物が出土したため、特に調査に時間を要した。調査区西寄りのピット群には柱根を残すものもあり、建物の復元が期待された。7月20日には地元大河津小学校の6年生22人が現場の見学に訪れ、発掘調査を体験した。翌21日、最初に手掛けた1区の調査を終え、完掘写真を撮影した。次いで8月5日に2区の完掘写真を撮影し、撮影後にピットの断ち割りを行い柱材を取り上げた。同29日から調査区の埋戻しを行い、31日に埋戻しが完了した。同日、全ての機材を現場から撤去し、発掘調査を終了した。調査時期は折りしも梅雨の時期に重なったが、この年は比較的雨が少なく、ほぼ順調に調査を進めることができた。

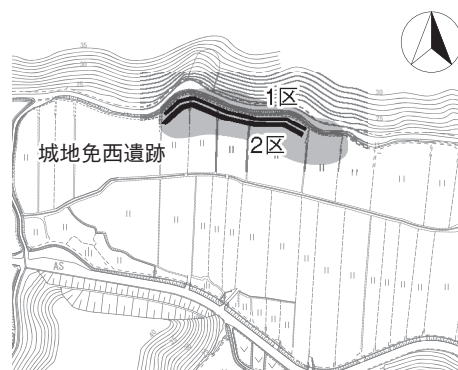
整理作業は土器洗い等の基礎整理を本発掘調査後に行い、報告書作成に向けての作業は令和5年度にかけて行った。また脆弱な木製品（曲物）1点の保存処理も行った。

第四章 調査成果

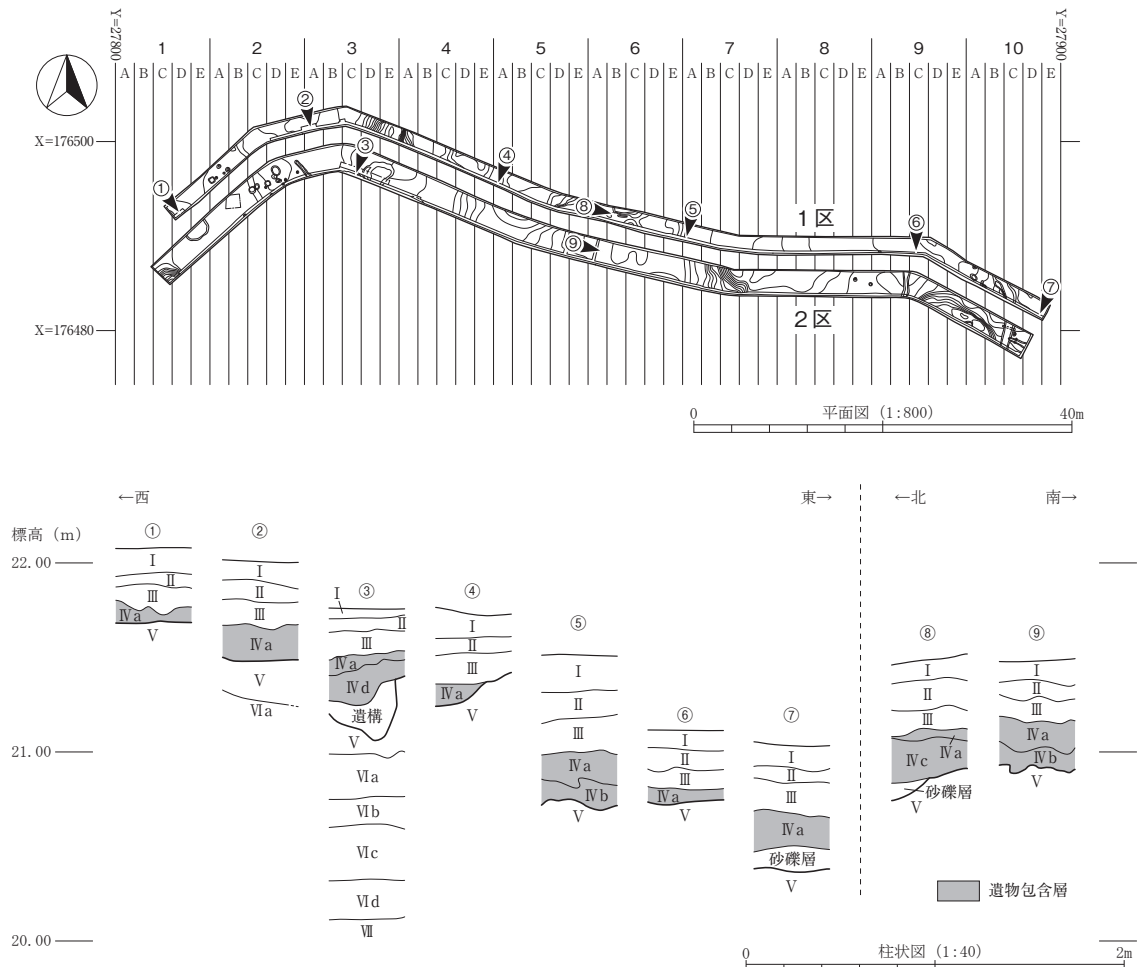
1 調査区の設定と基本層序

今回の調査では、排水路及びパイプライン敷設予定部分に、幅1.7mと2.8mのトレンチを設定し1区・2区とした（第3図）。グリッドは測地成果2011に準拠し、大小の2種を設定した（第4図）。調査区が東西方向に長かったため、グリッドは南北方向のみとした。大グリッドは10mとし、西から東に向けて算用数字を用いた。小グリッドは2mとし、西から東に向けてA～Eのアルファベットを用いた。

基本層序はⅠ～Ⅶ層に分層した（第4図・第2表）。Ⅰ・Ⅱ層は現代の水田耕作に関わる土層である。Ⅲ層は近世以降の水田耕作土と考えられ、細片化された古代遺物が極少



第3図 調査位置図 (1/5,000)



第4図 グリッド設定図と基本層序

第2表 基本層序

層位	土色	土色記号	土質	粘性	しまり	注記等
I	暗灰黄色	2.5Y4/2	粘質土	強	強	現水田耕作土。鉄分多量含む。
II	黄灰色	2.5Y5/1	粘質土	強	強	現水田床土。鉄分少量含む。
III	黄灰色	2.5Y4/1	シルト	やや強	強	近世以降水田耕作土か。炭化物少量、浅黄色細砂少量含む。細片化した古代遺物が極少量出土。
IV a	黒褐色	2.5Y3/2	粘質土	強	やや強	中世以降水田耕作土か。浅黄色細砂少量含む、下位でV層ブロックを巻き込む。細片化した古代遺物が定量出土するほか、中・近世の遺物が極少量出土。
IV b	黒色	2.5Y2/1	粘質土	強	やや弱	中世以降水田耕作土か。低地(窪地)で確認できる。未分解植物中量含む。細片化した古代遺物が極少量出土するほか、中・近世の遺物が極少量出土。
IV c	黒色	2.5Y2/1	砂質土	やや弱	やや弱	低地(窪地)で確認できる。未分解植物多量、地山ブロック中量含む。攪拌され水田化する以前のIV a・b層か。
IV d	黒色	2.5Y2/1	粘質土	やや強	強	近世以降の擾乱で元はSX13埋土か。炭化物多量、ふい橙(7.5YR6/4)ブロック(焼土?)多量含む。IV a・b層と比べて遺存率の高い古代遺物が多量に出土。
V	オリーブ灰色～灰色	2.5GY6/1～7.5Y6/1	砂質土～シルト	強～弱	強～やや弱	古代遺構確認面。地点により土質異なる。洪水・土石流堆積層で、供給源は後背の丘陵と考えられる。極少量の縄文土器が出土。
VI a	黒褐色	2.5Y3/1	粘質土	強	やや強	炭化物少量、V層土少量含む。
VI b	黄灰色	2.5Y4/1	粘質土	強	やや強	炭化物微量含む。
VI c	黒褐色	2.5Y3/1	粘質土	強	やや強	炭化物微量、黄灰色(2.5Y4/1)ブロック多量、未分解植物中量含む。
VI d	黄灰色	2.5Y4/1	粘質土	強	やや強	炭化物微量、黒褐色(2.5Y3/1)ブロック多量、VII層ブロック中量、未分解植物中量含む。
VII	オリーブ灰色	2.5GY6/1	粘質土	強	強	

量含まれる。IV層は古代の遺物包含層であるが、中世以降に水田耕作土として攪拌を受けており、それに伴い遺物も細片化が進んでいる。土質等でa～dに細分でき、IV a層はほぼ全域で確認され、IV b・c層は窪地状に落ち込んだ箇所でも認められる。IV d層は、元はSX13の埋土の一部と考えられ、比較的遺存率の高い遺物が出土した。なお、IV a～d層出土遺物はすべてIV層一括として扱った。V層は古代の遺構確

認面である。V層上面の標高は西から東、北から南に向かって下がっている。後世(主に近世以降)の攪乱(水田耕作やそれに伴う土地改変)はV層まで及んでおり、特に3～9グリッドでは顕著で古代の遺構検出が困難であった。また、1・3・7・10グリッド等では旧地形の落ち込み(谷状地形)を確認した。VI層は黄灰～黒褐色を呈する粘質土で、3グリッド付近を頂点とし東西に向かって深く、厚く堆積する様子を認めた。古代以前の谷状地形と考えられる。部分的に深掘りを行ったが、遺構や遺物は認められなかった。

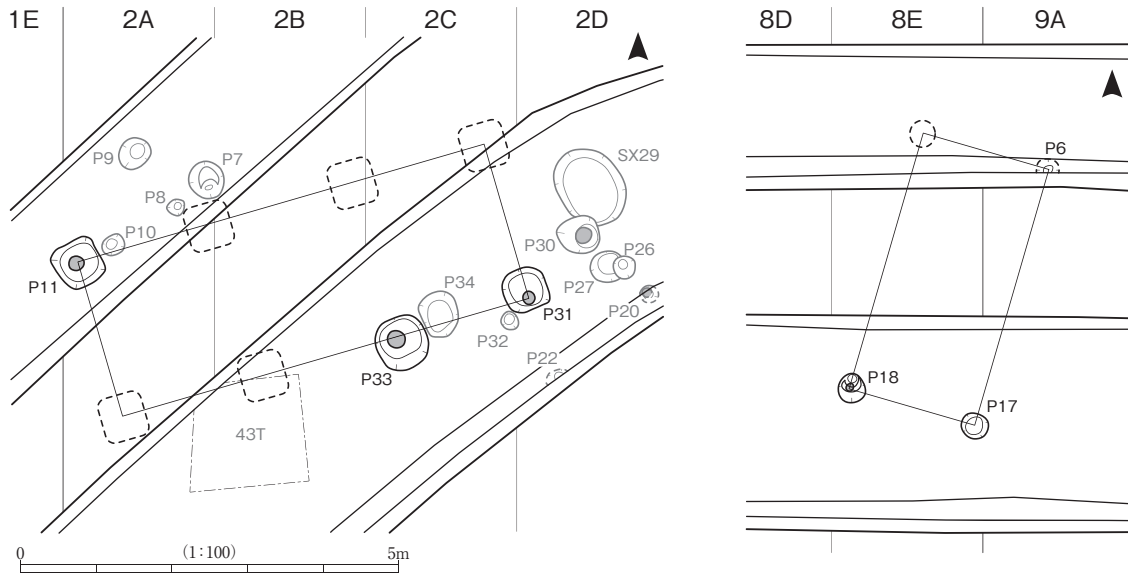
2 遺構 (図版1～5・12～15)

検出した遺構は、土坑(SK)2基、溝(SD)5条、性格不明遺構(SX)3基、ピット(P)24基である。出土遺物や埋土の様相からすべて古代に帰属すると考えられる。先述の通り、中世以降(主に近世以降)の水田耕作や攪乱により3～9グリッドでは遺構密度が希薄で、検出した遺構は1・2・10グリッドに集中する。ここでは主要な遺構について記述を行い、その他の遺構や形態・法量等については観察表を参照されたい。なお、観察表中の遺構形態は[加藤1999]、遺構埋土堆積状況は[荒川2004]を参考とした。SK SK28は円形もしくは楕円形を呈すると想定できる土坑で、掘り込みは浅い。意図的に破碎されたと考えられる土器が、底面からやや浮いた状態で出土した。大半が土師器である。

SD SD1・SD16・SD25はいずれも後背の山裾に直交するような方向で延びており、区画や排水といった機能を想定できる。SD1では、1区10C付近の底面で遺物がまとまって出土した。SD15は、SD1を切って調査区外へと延びる溝で、須恵器無台坏(21)が逆位で出土した。

SX SX12は開渠掘削中に認定した遺構で、大半は調査区外となっている。底面から円形曲物蓋(168)・箸(172・173)が出土した。SX13は2区3D・Eで検出した土坑状の遺構で、南側は調査区外へと及ぶ。SX13周辺は現地形で谷状地形の延長にあたり、旧地形も同様の様相を示す。そのためか層序の堆積が乱れており、V層が薄くVI層がV上面まで表出する。SX13はそのVI層を掘り込んで形成されているため、遺構範囲の認定が難航した。遺物は、底面付近から須恵器長頸瓶(33)・壺(34)、土師器小甕底部(40・42)などが出土したほか、埋土の上層を中心に出土している。また、SX13検出面の上層には遺存率の高い土器を含む層(IVd層)が堆積しており、状況からみて元来はSX13の埋土の一部と考えられる。土器の器種は土師器煮炊具が目立つが、IVd層では須恵器・土師器の食膳具も定量認められる。SX13の1・2層やIVd層は焼土と考えられるブロック土が含まれており、両者から出土している円筒形土製品や羽口等を加味すると、本遺構がカマド等の燃焼行為を伴う機能(住居の可能性も含む)を有していた可能性を指摘できよう。

P P9・P10・P17・P24・P26・P27・P30・P33から須恵器や土師器などの土器が、P11・P18・P30・P33から柱根が出土した。このほか、P20・P23・P24・P31では柱痕跡を確認した。1E～2Dグリッドでは、P11・P31・P33を用いて1間×3間の掘立柱建物を、8E～9Aグリッドでは、P6・P17・P18を用いて1間×1間の掘立柱建物を想定できる(第5図)。前者は隅丸方形の掘方を持つピットで構成され、いずれも柱根や柱痕が認められる。後者の建物は円形を呈するピットで構成され、P18からは柱根が出土している。しかし、いずれの建物もすべての柱を検出できておらず、あくまで想定に留める。



第5図 掘立柱建物復元図

3 遺物 (図版6～11・16～19)

縄文土器、須恵器、土師器、黒色土器、土製品、石製品、鍛冶関連遺物、木製品、銭貨が出土した。木製品を除く総量はコンテナ9箱分で、遺構外出土のものが大半であるがSX13周辺に集中する。土器及び円筒形土製品については遺構と遺構外に分けて報告し、その他の遺物は最後にまとめた。

土器の分類、胎土分類は浦反甫東遺跡〔丸山2016〕を参考とし第3表のように分類したが、点数の少ない器種については分類をしていない。時期区分については〔春日1999・2005〕に拠った。出土した土器は縄文土器を除けば、おおむねV～VI1期（9世紀代）に収まりV2期を主体とする。ただし土師器の中には、古墳時代に遡る可能性があるものが少量認められる。須恵器の胎土は大半が佐渡小泊産と考えられるB群で、C群が貯蔵具を中心に少量あり、A群は認められなかった。

第3表 土器分類基準表（〔丸山2016〕を改変）

種別・器種	大別	細別1	細別2	胎土	
須恵器	有台坏	A 浅身 (坏部径高指数 35 未満)	I 口径 11～12cm 前後	A群 胎土に石英・長石を多量に含み、器面が粗くざらついているもの。笹神丘陵の窯跡群など阿賀北地域が産地と推定される。 B群 胎土に白色の小粒子を多く含み、器面が滑らかなもの。色調は青灰色のものが多く、器面には焼成時に黒色鉱物が噴出した斑点が見られるものがある。佐渡小泊窯跡群が産地と考えられる。 C群 A群・B群以外のものを一括した。胎土は精良だが5mm前後の大きな長石を含む。推定される産地としては、類似した胎土や器形が存在する上越地域、あるいは古志郡内の在地窯の可能性があろう。	
		B 深身 (坏部径高指数 35 以上)	II 口径 13～14cm 前後		
	無台坏	A 体部直線	I 口径 12cm 未満		1 径高指数 23 未満
		B 体部湾曲	II 口径 12～13cm		2 径高指数 23～28
	坏蓋	A 天井部平坦	I 口径 14cm 未満		3 径高指数 28 以上
		B 天井部丸い、山笠形	II 口径 14～16cm		
C 扁平		III 口径 16cm 以上			
土師器・黒色土器	無台坏	A 体部直線	I 口径 12cm 未満	1 径高指数 23 未満	
			II 口径 12～13cm	2 径高指数 23～28	
			III 口径 13cm 以上	3 径高指数 28 以上	
	無台椀	B 体部湾曲	I 口径 12cm 未満	1 径高指数 28 未満	
			II 口径 12～13cm	2 径高指数 28～35	
			III 口径 13cm 以上	3 径高指数 35 以上	
	小甕	A 輪積成形	I 口径 10～12cm		
			II 口径 12～15cm		
			III 口径 15cm 以上		
	長甕		I 口径 17cm 未満		
			II 口径 17～22cm		
			III 口径 22cm 以上		
鍋	B ロクロ成形	I 口径 30cm 未満			
		II 口径 30～40cm			
		III 口径 40cm 以上			
				B群 粘土質の胎土で、硬質な焼成のもの。白色・黒色を呈するもので、砂を多めに含む。	
				C群 精良な粘土質の胎土で、軟質の焼成のもの。	
				D群 精良な粘土質の胎土で、少量の砂や海綿骨針を含む。無台椀の精製品や黒色土器にみられる。	
				E群 シルト質の胎土で、赤色や白色の粒子を多く含む。礫はほとんど含まない。須恵器製作技法を用いた土師器を中心にみられる。	
				F群 シルト質の胎土で、多量の砂と礫も含む。E群より粒子が粗いもので、煮炊具に多い。	

(1) 遺構出土土器

SK28 1は須恵器坏蓋で天井部が平坦になるものと考えられる。2は須恵器無台坏で器壁は薄い。3は土師器無台坏で内面口縁部付近にススが付着し、灯明皿としての利用が想定できる。4は土師器長甕で図上復元してある。体部上半はロクロナデやカキメ、下半はタタキ・当て具痕が残り内面はさらにハケメ調整される。

SD1 5は須恵器有台坏で低い高台が付く。6～14は須恵器無台坏である。器壁はやや薄手で、口縁は外傾して開くものが多い。14は胎土C群でそれ以外はB群である。15～20は土師器で、15・16は無台碗、17・18は長甕、19・20は小甕でいずれも小片である。

SD15 21は須恵器無台坏である。

P9 22は土師器小甕の底部破片と考えられる。

P17 23は土師器小甕の底部破片である。外面にはススが付着する。

SX13 24は須恵器有台坏、25～27は須恵器無台坏である。24底部には回転ヘラ切り痕が残る。胎土はいずれもB群である。28～30は土師器無台坏、31・32は土師器無台坏と考えられる。28の内面口縁部にはススが付着し、灯明皿としての利用が想定できる。33は須恵器長頸瓶、34は須恵器壺である。34は胎土や技法が150・151に似ることから、耳付壺の可能性が高い。33・34とも胎土はC群である。35～37は土師器長甕としたが、37は古式土師器とも捉えられる。36は体部上半はロクロナデやカキメ、下半はタタキ・当て具痕が残り、さらにハケメ調整される。また、内外面とも板状工具によるナデ調整が施される。37の外面は板状工具によるナデ調整が施される。38～42は土師器小甕である。40・41は外面底部付近を削った後ナデ調整される。41はさらに削り取った土を底部外面に貼り付けて、輪台状に底部を調整する。43～45は土師器鍋である。44は内外面ともロクロナデの後カキメやハケメ調整が施される。46・47は円筒形土製品で同一個体とみられる。

(2) 遺構外出土土器

SX13周辺IV層 2区SX13直上や周辺のIV層のものを一括した。48～66は須恵器食膳具で、48～50が坏蓋、51～53が有台坏、54～66が無台坏である。48は環状の摘みが付く。49内面には墨痕が認められ、転用硯と考えられる。63の内面口縁部にはススが付着する。66底部外面には墨書が認められる。「奈」もしくは「太」か。67～82は土師器食膳具で、67～69が無台坏、70～82が無台碗である。67・68の内面口縁部にはススが付着し、灯明皿としての利用が想定できる。81・82は外面底部付近にケズリ調整がみられる。83～85は黒色土器無台碗と考えられる。いずれも胎土は精良である。86～91は須恵器貯蔵具で、86が水瓶、87・88が長頸瓶、89が壺瓶類の底部、90・91が甕である。90は頸部に「十」字状の線状痕が認められ、ヘラ記号と考えられる。92～104は土師器煮炊具で、92～97が長甕、98～104が小甕である。100～102の内面にはオコゲの付着が認められる。

IV層 105～140は須恵器食膳具で、105～112が坏蓋、113～119が有台坏、120～140が無台坏である。105には低い擬宝珠状の摘みが付く。111・112の内面には墨痕が認められ、転用硯と考えられる。126の内外面口縁部には薄くススが付着する。139・140の底部外面には墨書が認められるが、いずれも破片資料で文字の判別には至らない。141～145は土師器食膳具で、いずれも無台碗である。146～152は須恵器貯蔵具で、146が長頸瓶、147が短頸壺、148・149が壺瓶類の底部、150・151が耳付壺で同一個体と考えられ、152が甕である。153～162は土師器煮炊具で、153～156が長甕、157～160が小甕、161が甕底部破片で古式土師

器の可能性も残す。162は鍋である。163は円筒形土製品と考えられる。

V層 164は縄文土器の粗製深鉢と考えられる。

(3) その他の遺物

165は土錘で細形である。下端は欠損する。166は羽口破片と考えられる。胎土にはスサを少量含む。被熱度合いが弱いことから基部側の破片であろうか。SX13より出土した。167は凝灰岩製の砥石で、破碎後に全体が弱く被熱しスサが付着する。

168は円形曲物の蓋で、側板の一部を欠く。側板は樺皮によって綴じられており、側板と蓋板は、側板側から木釘を打ち込み結合してある。蓋板は2つに割れており、割れ口に沿って補習孔が認められる。また、分割した一方の内面には刃物による線状痕が認められることから、破損後に一度組板として利用した様子が窺える。169～171は板状もしくは棒状を呈する木製品である。169の下端は片刃状に加工される。172～174は箸もしくは箸状の木製品でいずれも上下端が欠損する。175・176は柱根である。177は樹皮である。168・172・173がSX12、169・171・174・177がSX13、175がP11、176がP18出土である。

178～180は銭貨でいずれも遺構外出土である。178は開元通寶（初鑄621年）、179は大観通寶（初鑄1107年）、180は永樂通寶（初鑄1408年）で左半を欠く。

第V章 まとめ

調査の結果、城地免西遺跡は平安時代（9世紀代）の遺跡であることが判明した。遺構では、掘立柱建物2棟を推定したほか、多量の土器を伴う土坑（SK28）、性格不明遺構（SX13）などを検出した。SK28は土器の廃棄土坑と考えられ、SX13は燃焼行為を伴う遺構である可能性が高い。遺物では、文字の判読ができなかったが、墨書土器3点と坏蓋を利用した転用硯が出土した。遺跡の性格を示す資料と言える。

今回の調査成果は、寺泊田尻地区において古代遺跡が確認された初例となる。田尻地区の周辺は、縄文時代中期頃より人々の営みが確認される。遺跡周辺の丘陵上には弥生時代後期前半の屋鋪塚遺跡（方形台状墓）や古墳時代前期の大久保古墳群が築かれるが、周辺地域でこれらの母集落は見つかっていない。当地域において墓域を形成する集団が進出し、その後開発・定着に至る背景は未だ判然とはしないものの、古代において集落が営まれたことは明らかである。なお古代以降、城地免西遺跡を含む周辺は水田化され、現代に至るまで生産の場として機能したものと考えられる。

参考文献

- | | | |
|-------|------|---|
| 荒川隆史 | 2004 | 「第IV章 1記述の方法」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 |
| 春日真実 | 1999 | 「第IV章 第2節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院 |
| 春日真実 | 2005 | 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について－「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に－」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会 |
| 加藤 学 | 1999 | 「第V章 1. 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 |
| 加藤由美子 | 2021 | 「寺泊（平野新）地区試掘調査」『令和2年度長岡市内遺跡調査報告書』長岡市教育委員会 |
| 寺泊町 | 1991 | 『寺泊町史』通史編 上巻・下巻 |
| 寺泊町 | 1992 | 『寺泊町史』資料編1 原始・古代・中世 |
| 丸山一昭 | 2016 | 「第V章 第3節 1土器」『長岡市埋蔵文化財調査報告書 浦反甫東遺跡』長岡市教育委員会 |

第4表 遺構観察表

図版番号	遺構種別	遺構番号	地区	グリッド	形態：() は推定			規模 (cm)：() は残存値				底面標高 (m)	長軸方向	埋土堆積	重複関係 (新>旧)	出土遺物
					平面形	断面形	立上がり	上端長径	上端短径	深度	柱痕上端長径					
3・5	SD	1	1・2	10B・C	弧状～直線状	階段状～弧状	緩やか～急斜度	1区 197 2区 232	1区 131 2区 110	21	-	20.18～20.25	N-19°-W～N-13°-E	レンズ状	SD1 < SD15	1層：土師器・須恵器
3・5	P	2	1	10A・B	(円形)	半円状	急斜度	(34)	(23)	11	-	20.38	-	単層	-	-
3・5	SD	3	1	10A	(直線)	半円状	急斜度	55	25	21	-	20.30	N-12°-E	単層	-	-
3	P	4	1	10A	(円形)	階段状	急斜度	46	(26)	24	-	20.34	-	単層	-	-
4	SK	5	1	10A	楕円形	弧状	緩やか	85	50	9	-	20.43	N-42°-W	単層	-	1層：土師器
3	P	6	1	9A	(円形)	V字状	急斜度	(30)	(18)	(16)	-	20.34	-	単層	-	-
2	P	7	1	2A・B	円形	階段状	急斜度	50	46	24	-	21.43	-	単層	-	-
2	P	8	1	2A	円形	半円状	急斜度	21	20	16	-	21.47	-	単層	-	-
2	P	9	1	2A	円形	半円状	急斜度	44	39	19	-	21.46	-	レンズ状	-	1層：土師器
2	P	10	1	2A	円形	半円状	急斜度	30	26	22	-	21.41	-	レンズ状	-	1層：土師器
5	P	11	1	1E・2A	方形	箱状	垂直	61	61	44	20	21.23	-	柱痕	-	2層：柱根
4	SX	12	2	4A・B	(楕円形)	階段状	急斜度	(147)	-	47	-	-	-	レンズ状	-	2層：円形曲物蓋・箸
4	SX	13	2	3D・E	不整形	階段状	急斜度	(234)	275	49	-	20.97	N-27°-E	ブロック状	-	一括：須恵器・土師器・円筒形土製品・羽口・箸・板状木製品・棒状木製品・樹皮
3	P	14	2	10C	楕円形	階段状	急斜度	41	31	23	-	20.20	-	レンズ状	-	-
3・5	SD	15	2	10C・D	直線状	弧状	緩やか	196	61	11	-	20.27	N-66°-W	単層	SD15 > SD1	1層：須恵器・土師器
3・5	SD	16	2	9B・C	直線状	弧状	緩やか	263	68	16	-	20.45	N-1～20°-E	レンズ状	-	1層：土師器
3	P	17	2	8E・9A	円形	台形状	急斜度	36	33	30	-	20.28	-	単層	-	1層：土師器
5	P	18	2	8E	円形	階段状	急斜度～垂直	39	35	43	11	20.21	-	柱痕	-	1層：柱根
2	P	19	2	2E	円形	半円状	急斜度	29	25	16	-	21.33	-	レンズ状	-	-
5	P	20	2	2D	(円形)	半円状	急斜度	(24)	(23)	19	13	21.37	-	柱痕	-	-
4	P	21	2	3C	(円形)	半円状	急斜度	(39)	-	33	-	-	-	レンズ状	-	-
2	P	22	2	2D	(円形)	V字状	急斜度	(33)	(12)	38	-	21.17	-	レンズ状	-	-
5	P	23	2	2B	(円形)	半円状	急斜度	(34)	(18)	30	(17)	21.30	-	柱痕	-	-
5	P	24	2	2D・E	楕円形	階段状	急斜度	35	23	20	18	21.36	-	柱痕	-	1層：土師器
2・5	SD	25	2	2E・3A	直線状	台形状	急斜度	219	40	35	-	21.19	N-41°-W	ブロック状	-	1層：土師器・2層：須恵器・土師器
2	P	26	2	2D	円形	U字状	急斜度～垂直	30	30	34	-	21.23	-	単層	P26 > P27	1層：須恵器・土師器
2	P	27	2	2D	円形	台形状	急斜度	(41)	41	48	-	21.09	-	レンズ状	P27 < P26	1層：土師器・2層：土師器・3層：須恵器・土師器・4層：土師器
4	SK	28	2	1D・E	(楕円形)	弧状	緩やか	267	(134)	18	-	21.45	N-48°-E	レンズ状	-	1層：須恵器・土師器・2層：須恵器・土師器・3層：土師器・一括：須恵器・土師器
4	SX	29	2	2D	楕円形	弧状	緩やか	107	84	13	-	21.46	N-30°-W	単層	SX29 < P30	-
5	P	30	2	2D	円形	弧状	緩やか～急斜度	58	51	20	21	21.38	-	柱痕	P30 > SX29	1層：土師器・柱根・2層：土師器
5	P	31	2	2C・D	方形	半円状	急斜度	58	56	28	17	21.26	-	柱痕	-	-
2	P	32	2	2C・D	円形	U字状	垂直	25	22	29	-	21.22	-	レンズ状	-	-
5	P	33	2	2C	方形	箱状	垂直	70	68	44	24	21.18	-	柱痕	-	1層：土師器・2層：柱根
2	P	34	2	2C	楕円形	台形状	急斜度	60	49	33	-	21.27	-	レンズ状	-	-

第5表 遺物観察表 土錘・砥石・羽口

図版番号	報告番号	出土位置			器種	材質	法量 (cm)：() は残存値			重量 (g)	備考	
		地区	グリッド	遺構名			長さ	幅	厚さ			
11	165	2	3D	-	IV	土錘	土製	(4.4)	1.2	1.2	4.63	下半欠損
11	166	2	3D	SX13	一括	羽口	土製	(4.2)	(6.8)	(3.5)	91.09	羽口基部側破片か
11	167	2	1E	-	IV	砥石	凝灰岩	(6.8)	(3.4)	(2.5)	79.23	スス付着

第6表 遺物観察表 木製品

図版番号	報告番号	出土位置			器種	法量 (cm)：() は残存値もしくは復元径				木取り	樹種 () は肉眼観察で判断	備考	
		地区	グリッド	遺構名		長さ/口径	幅/底径	厚さ/器高	器厚				
11	168	2	4A	SX12	2	円形曲物蓋	蓋板 37.2 側板 (37.5)	蓋板 38.8	器高 5.0 身高 4.2	蓋板 1.2 側板 0.5	蓋板：榎目 側板：榎目	蓋板：スギ 側板：スギ	蓋板内面線状痕 蓋板補修用木釘孔あり
11	169	2	3D	SX13	一括	板状木製品	10.7	4.7	1.5	-	板目	(広葉樹か)	-
11	170	1	3E	-	IV	板状木製品	(15.4)	2.4	0.7	-	板目	(針葉樹)	上・下端欠損
11	171	2	3E	SX13	一括	棒状木製品	(12.4)	1.2	0.8	-	削出心去	(針葉樹)	上・下端欠損
11	172	2	4B	SX12	2	箸	(17.7)	0.7	0.5	-	削出心去	(針葉樹)	上・下端欠損
11	173	2	4B	SX12	2	箸	(15.4)	0.6	0.5	-	削出心去	(針葉樹)	上・下端欠損
11	174	2	3E	SX13	一括	箸	(10.8)	0.7	0.7	-	削出心去	(針葉樹)	上・下端欠損
11	175	1	2A	P11	2	柱根	(20.2)	23.7	(13.7)	-	分割心去	(広葉樹か)	-
11	176	2	8E	P18	1	柱根	(41.5)	15.2	15.8	-	丸木取り	(広葉樹か)	-
11	177	2	3E	SX13	一括	樹皮	2.3	4.1	1.4	皮厚 0.1	-	(サクラ)	-

第7表 遺物観察表 銭貨

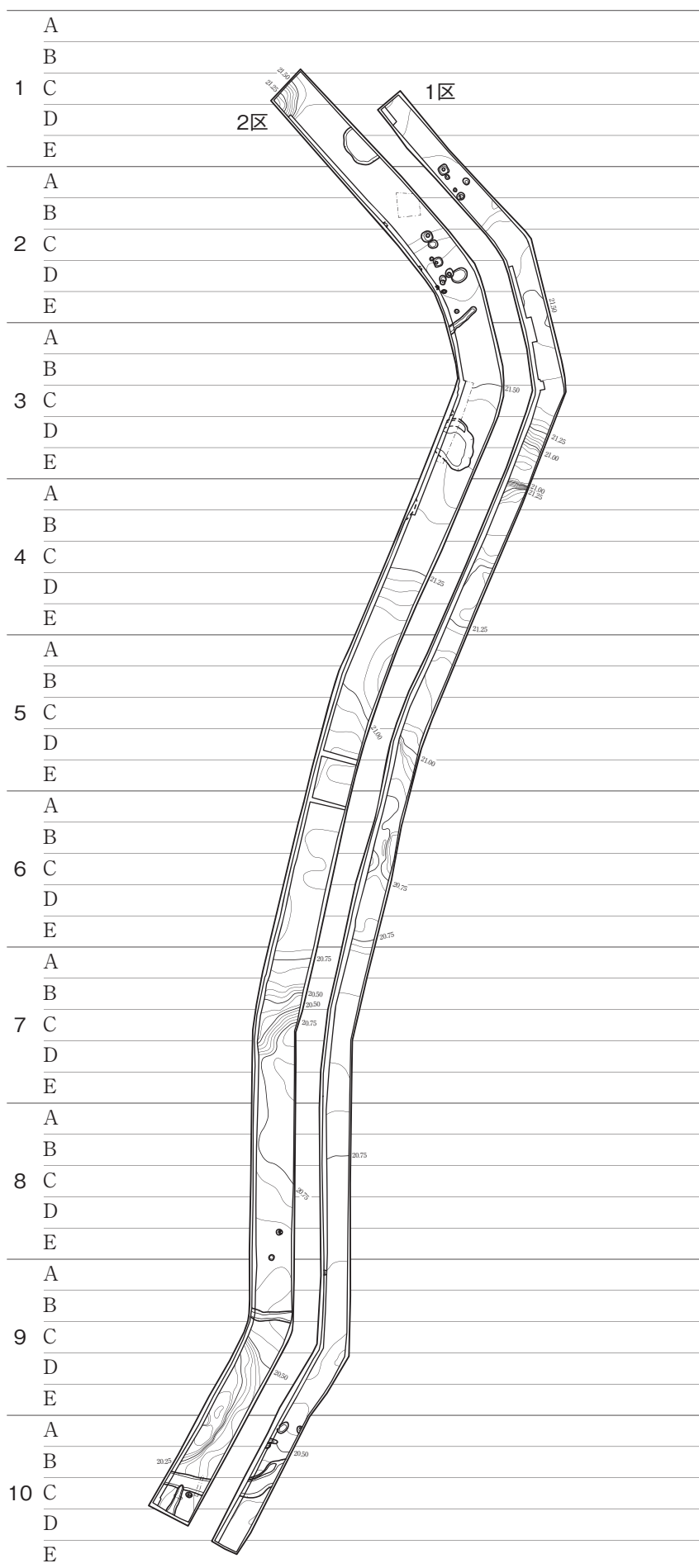
図版番号	報告番号	出土位置			銭種	法量 (mm)					重量 (g)	王朝	初鑄年	備考		
		地区	グリッド	遺構名		外縁外径	外縁内径	内郭外径	内郭内径	外縁厚					文字面厚	
11	178	1	3B	-	IV	開元通寶	24.1	20.5	8.1	7.0	1.2	0.7	290	唐	621	隷書体
11	179	1	2A	-	IV	大観通寶	24.6	20.9	7.4	6.1	1.5	0.7	2.56	北宋	1107	真書体 歪みあり
11	180	2	10C	-	IV	永樂通寶	25.0	20.9	7.0	5.9	1.4	0.7	1.72	明	1408	真書体 左半欠損

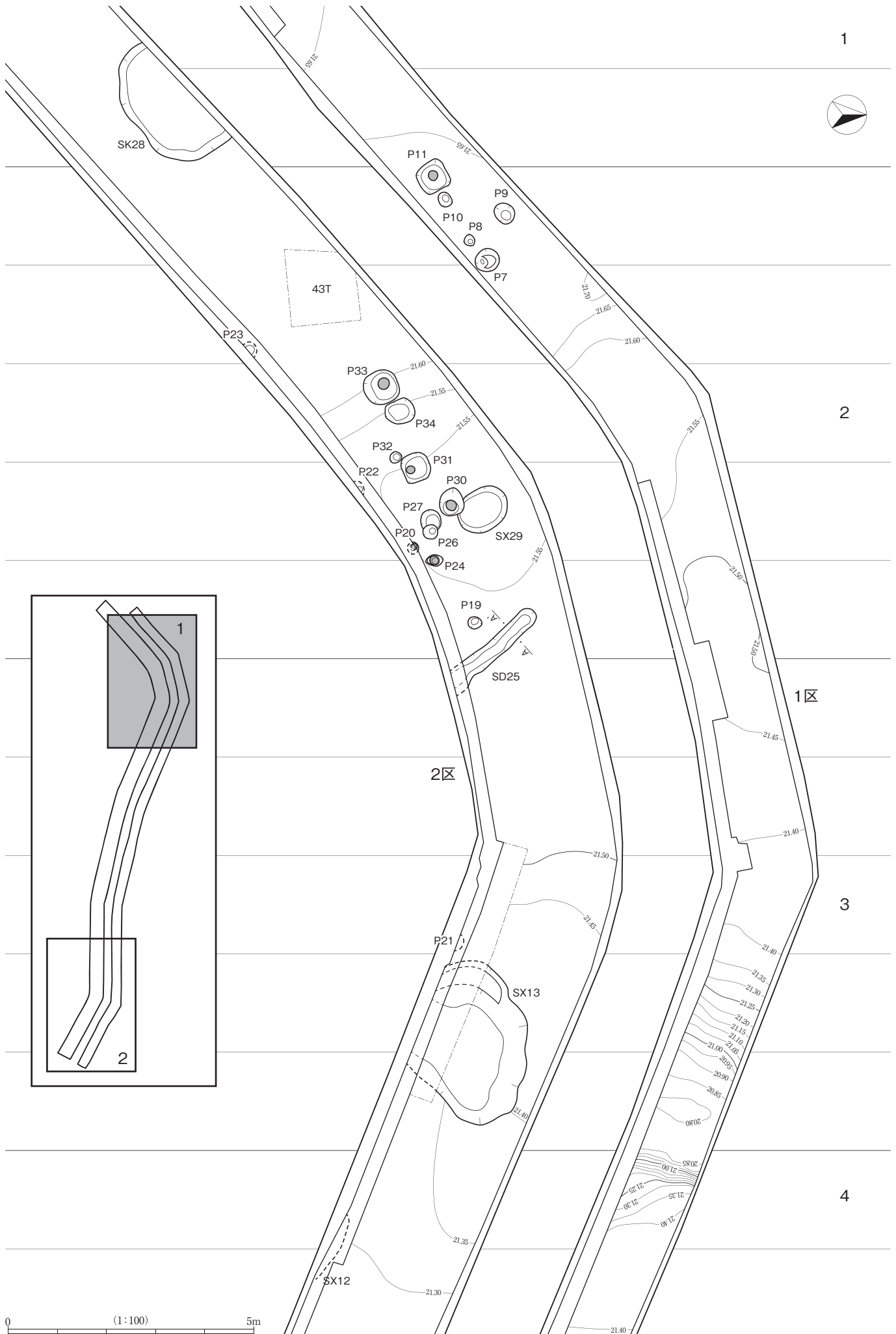
第9表 遺物観察表 土器・円筒形土製品(2)

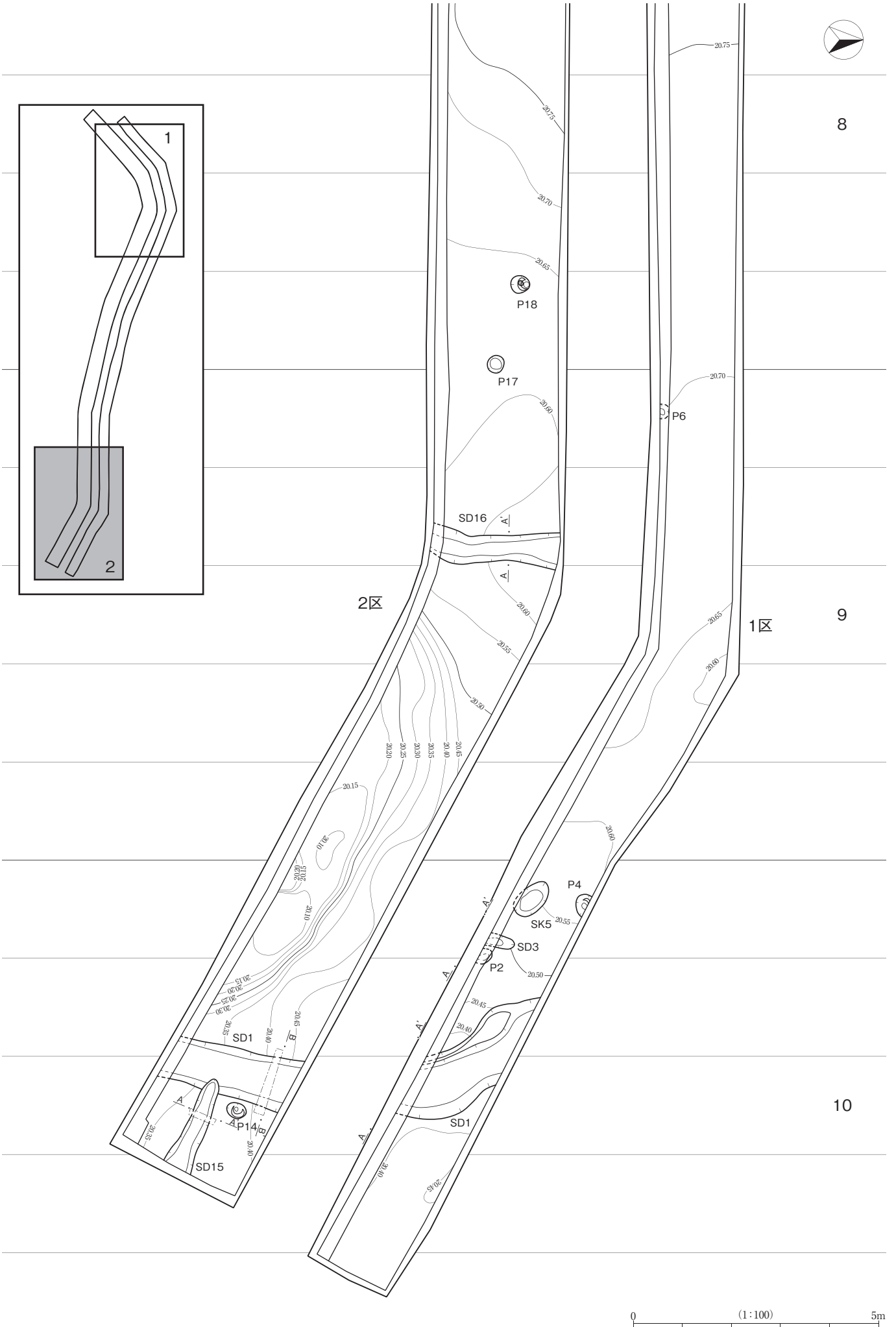
図形 番号	標号 番号	地区	出土位置		器種	器形 分類	法度 (cm)		口径	底径	器高	径底 指数	口径 指数	遺存率		胎土	含有物	色調		焼成	調整等		回転	備考
			クワット	遺構名			層位	種別						底径	器高			底径部	口縁部		外面	内面		
7	38	2	3D	3D	-	B II	144	-	(129)	-	-	-	-	20	A	石・雲・礫	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	内面口縁部ナテ	
7	39	2	3E	SX13	-	A II	125	-	(43)	-	-	-	-	9	A	石・長・角・礫	灰	灰	酸・軟	ヨコナテ	-	-	ヘラ切→ナテ	非口縁部
7	40	2	3E	SX13	-	B	-	7.6	(56)	-	-	-	-	36	A	石・長・礫	灰	灰	酸・硬	R ナテ・カキメ	-	-	ヘラ切→ナテ	右
7	41	2	3D	SX13	-	B	-	6.8	(47)	-	-	-	-	36	F	石・長・白・礫	灰	灰	酸・硬	R ナテ・カキメ	-	-	R 糸切→ナテ	右
7	42	2	3D	SX13	-	B	-	6.2	(52)	-	-	-	-	36	A	長・礫	灰	灰	酸・軟	R ナテ	-	-	R 糸切	右
7	43	2	3E	3D・3E・4A	-	B II	360	-	(106)	-	-	-	-	23	F	石・長・礫	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	-	-
7	44	2	3D	SX13	-	B II	384	-	(103)	-	-	-	-	2	E	石・長・雲・海	灰	灰	酸・硬	R ナテ→カキメ・ハケメ	-	-	-	-
7	45	2	3D	SX13	-	B III	468	-	(56)	-	-	-	-	2	A	長・雲・礫	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	-	-
7	46	2	3D	SX13	-	円筒形土製品	-	-	(12)	-	-	-	-	-	F	石・長・礫	灰	灰	酸・軟	R ナテ	-	-	-	-
7	47	2	3D	SX13	-	円筒形土製品	-	-	(25)	-	-	-	-	-	F	石・長・礫	灰	灰	酸・軟	R ナテ	-	-	-	-
7	48	2	3E	-	須臾器	坏蓋	-	-	(17)	-	-	-	-	-	B	黒・白・礫	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	指頭圧痕・ナテ	左
7	49	2	3D	-	須臾器	坏蓋	130	-	(17)	-	-	-	-	9	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	左
7	50	2	3E	-	須臾器	坏蓋	134	-	(24)	-	-	-	-	4	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	左
7	51	2	3E	-	須臾器	有台坏	134	-	(58)	-	-	-	-	2	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-
7	52	2	4A	-	須臾器	有台坏	-	7.4	(20)	-	-	-	-	6	C	長・白	青灰	青灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-
7	53	2	3D	-	須臾器	有台坏	-	9.2	(62)	-	-	-	-	6	B	白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-
8	54	2	3D	-	須臾器	無台坏	119	8	30	252	672	13	23	B	白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	左	
8	55	2	3E	-	須臾器	無台坏	122	9	31	254	737	3	7	B	黒・白・礫	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	左	
8	56	2	3D	-	須臾器	無台坏	123	8.4	36	292	682	1	25	B	長・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	左	
8	57	2	3E	-	須臾器	無台坏	126	9.5	31	246	753	1	4	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	左	
8	58	2	3E	-	須臾器	無台坏	132	8.4	34	257	636	2	7	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	左	
8	59	2	3D	-	須臾器	無台坏	107	5.2	26	242	485	3	6	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	左	
8	60	2	3C	-	須臾器	無台坏	113	-	(24)	-	-	-	-	5	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-
8	61	2	4A	-	須臾器	無台坏	124	-	(26)	-	-	-	-	5	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-
8	62	2	3E	-	須臾器	無台坏	126	6.8	27	214	539	5	5	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-	
8	63	2	3E	-	須臾器	無台坏	124	-	(25)	-	-	-	-	6	B	黒・白・礫	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-
8	64	2	3E	-	須臾器	無台坏	-	8.4	(14)	-	-	-	-	8	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-
8	65	2	3D	-	須臾器	無台坏	-	8.4	(20)	-	-	-	-	9	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-
8	66	2	4A	-	須臾器	無台坏	-	7.0	(06)	-	-	-	-	12	B	黒・白	灰	灰	選・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	左
8	67	2	3D	-	須臾器	無台坏	116	7.2	35	301	620	9	9	E	長・雲・赤・白	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	-	
8	68	2	3D	-	須臾器	無台坏	125	7.8	37	296	624	18	30	F	長・白・礫	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	右	
8	69	2	3E	-	須臾器	無台坏	131	9.8	42	320	748	19	23	A	石・長・礫	灰	灰	酸・軟	R ナテ	-	-	R ナテ	右	
8	70	2	3E	-	須臾器	無台坏	123	7.0	3.4	27.6	569	6	36	E	長・赤・白・礫	灰	灰	酸・軟	R ナテ	-	-	R ナテ	右	
8	71	2	4A	-	須臾器	無台坏	110	-	(18)	-	-	-	-	6	E	石・長・赤	灰	灰	酸・軟	R ナテ	-	-	R ナテ	-
8	72	2	3E	-	須臾器	無台坏	-	4.4	(13)	-	-	-	-	9	E	石・雲・角	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	右
8	73	2	3E	-	須臾器	無台坏	-	5.2	(16)	-	-	-	-	36	F	石・白・礫	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	右
8	74	2	3D	-	須臾器	無台坏	-	4.8	(18)	-	-	-	-	21	E	赤・白	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	右
8	75	2	3D	-	須臾器	無台坏	-	5.2	(18)	-	-	-	-	25	E	石・長	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	右
8	76	2	4A	-	須臾器	無台坏	-	4.7	(13)	-	-	-	-	36	E	石・赤・白・角	灰	灰	酸・軟	R ナテ	-	-	R ナテ	右
8	77	2	3E	-	須臾器	無台坏	-	5.2	(10)	-	-	-	-	8	D	白・海	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	右
8	78	2	3E	-	須臾器	無台坏	-	5.0	(12)	-	-	-	-	12	D	石・白・海	灰	灰	酸・軟	R ナテ	-	-	R ナテ	右
8	79	2	3E	-	須臾器	無台坏	-	4.5	(25)	-	-	-	-	17	E	石・長・白	灰	灰	酸・硬	R ナテ	-	-	R ナテ	右
8	80	2	4A	-	須臾器	無台坏	-	5.4	(16)	-	-	-	-	14	D	白・角	灰	灰	酸・軟	R ナテ	-	-	R ナテ	右

第 11 表 遺物観察表 土器・円筒形土製品 (4)

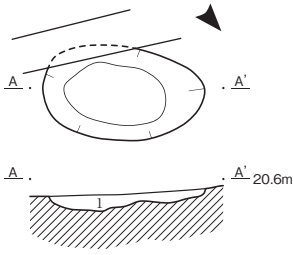
図録 番号	標本 番号	地区	出土位置		層位	種別	器種	器形 分類	法長 (cm)		口径	口径 指数	底径 指数	口径 指数	底径 指数	胎土	含有物	色調		焼成	観察等		回転	備考
			口徑	底徑					器高	外面								内面	外面		内面	外面		
9	126	1	6E	-	IV	須恵器	無台坏	A II	118	-	(29)	-	-	10	-	B	長・白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	-	-	内外面口縁部ス (右明り)
9	127	1	3E	-	IV	須恵器	無台坏	A III	142	-	(38)	-	-	5	-	C	石	灰白	灰白	Rナテ	Rナテ	-	-	
9	128	1	9D	-	IV	須恵器	無台坏	A III	133	-	(23)	-	-	4	-	B	黒・白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	-	-	
9	129	2	4C	-	IV	須恵器	無台坏	A	82	-	(19)	-	-	6	B	黒・白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	-	-		
9	130	1	8C	-	IV	須恵器	無台坏	Aか	88	-	(17)	-	-	13	C	長・黒	灰黄	灰黄	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ	底部外面へラ記号か	
9	131	1	3D	-	IV	須恵器	無台坏	B	78	-	(23)	-	-	11	C	白・黒	灰白	灰白	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ	左	
9	132	2	3B	-	IV	須恵器	無台坏	A	78	-	(21)	-	-	12	C	長・白・海	灰	灰	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ		
9	133	1	10A	-	IV	須恵器	無台坏	A	102	-	(25)	-	-	5	C	長・白・海	灰	灰	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ		
10	134	2	1C	-	IV	須恵器	無台坏	A	78	-	(17)	-	-	12	B	黒・白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ	左	
10	135	2	6E	-	IV	須恵器	無台坏	A	80	-	(14)	-	-	9	B	黒・白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ	左	
10	136	1	3B	-	IV	須恵器	無台坏	Aか	86	-	(14)	-	-	12	B	黒・白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ		
10	137	2	5A	-	IV	須恵器	無台坏	A	72	-	(20)	-	-	13	B	黒・白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ	左	
10	138	1	10D	-	IV	須恵器	無台坏	A	76	-	(24)	-	-	7	B	白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ		
10	139	1	10A	-	IV	須恵器	無台坏	-	80	-	(06)	-	-	-	-	B	白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	-	-	底部外面黒書
10	140	1	10A	-	IV	須恵器	無台坏	-	-	-	(04)	-	-	-	-	B	白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	-	-	底部外面黒書
10	141	2	7B	-	IV	土師器	無台碗	Aか	53	-	(13)	-	-	13	B	石・白・黒	灰黄	灰黄	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切	Rヘラ切	右	
10	142	1	3E	-	IV	土師器	無台碗	Bか	51	-	(13)	-	-	36	F	石・長・白・黒	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	R糸切	R糸切	右	
10	143	1	10D	-	IV	土師器	無台碗	Bか	47	-	(13)	-	-	19	F	石・長・赤・白・角・ 黒	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	切離し→ナテ	切離し→ナテ		
10	144	1	4A	-	IV	土師器	無台碗	Bか	52	-	(16)	-	-	11	E	白・黒	浅黄	浅黄	Rナテ	Rナテ	R糸切	R糸切	右	
10	145	2	6E	-	IV	土師器	無台碗	Bか	48	-	(10)	-	-	23	D	赤・白・角	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	R糸切	R糸切		
10	146	1	3B	-	IV	須恵器	長頸瓶	-	120	-	(18)	-	-	5	-	B	長・黒・白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	-	-	内外面漆灰
10	147	1	2A	-	IV	須恵器	短頸壺	-	108	-	(33)	-	-	1	-	C	長・白・黒	灰白	灰白	Rナテ	Rナテ	-	-	外面漆灰
10	148	1	5B	-	IV	須恵器	壺類	-	-	-	(30)	-	-	-	-	C	長・白・黒	灰	灰	Rナテ	Rナテ	-	-	高台銅離
10	149	1	9E	-	IV	須恵器	壺類	-	10.4	-	(46)	-	-	9	B	黒・白	灰	灰	Rナテ	Rナテ	Rヘラ切→ナテ	Rヘラ切→ナテ	内面漆灰	
10	150	2	1C	-	IV	須恵器	耳付壺	-	-	-	(68)	-	-	-	-	C	石・長・白・黒	灰	灰	Rナテ	Rナテ	-	-	やや酸化陥落成 151と同じ一割体
10	151	1	4D	-	IV	須恵器	耳付壺	-	12.6	-	(52)	-	-	13	C	石・長・白・黒	灰	灰	Rナテ	Rナテ	ケズリ→ナテ	ケズリ→ナテ	やや酸化陥落成 150と同じ一割体	
10	152	1	3E	-	IV	須恵器	甕	-	266	-	(64)	-	-	2	-	B	長・黒・白	褐灰	褐灰	Rナテ	Rナテ	-	-	口縁部一内面漆灰
10	153	2	7C	-	IV	土師器	長甕	B II	180	-	(35)	-	-	6	-	E	赤・白	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	-	-	
10	154	1	9B	-	IV	土師器	長甕	B II	190	-	(70)	-	-	3	-	E	石・長・雲・白	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	-	-	
10	155	1	8E	-	IV	土師器	長甕	B II	215	-	(53)	-	-	4	-	F	長・白・黒	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	-	-	
10	156	2	4C	-	IV	土師器	長甕	B III	286	-	(34)	-	-	4	-	E	長・赤・白	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	-	-	
10	157	1	4C	-	IV	土師器	小甕	B	62	-	(13)	-	-	13	F	石・長・雲・白・ 黒	灰黄	灰黄	Rナテ	Rナテ	R糸切	R糸切	右	
10	158	1	5D	-	IV	土師器	小甕	B	58	-	(30)	-	-	8	F	石・赤・白・黒	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	切離し→ナテ	切離し→ナテ		
10	159	1	7D	-	IV	土師器	小甕	B	76	-	(20)	-	-	3	F	石・長・白・黒	灰黄	灰黄	Rナテ	Rナテ	切離し→ナテ	切離し→ナテ		
10	160	2	5C	-	IV	土師器	小甕	B	78	-	(32)	-	-	5	F	長・白・角・黒	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	R糸切	R糸切	右	
10	161	1	4E	-	IV	土師器	甕	A	36	-	(30)	-	-	18	F	長・赤・黒	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	-	-	非ロクロ	
10	162	1	3E	-	IV	土師器	銅	B III	462	-	(55)	-	-	3	-	E	石・長・雲・海・ 黒	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	-	-	
10	163	1	3B	-	IV	土製品	円筒形土製品	-	216	-	(62)	-	-	3	-	F	石・長・雲・黒	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	-	-	
10	164	2	3D	-	V	縄文土器	深鉢	-	91	-	(49)	-	-	20	-	-	石・長	にぶい	にぶい	Rナテ	Rナテ	ナテ	ナテ	相親深鉢





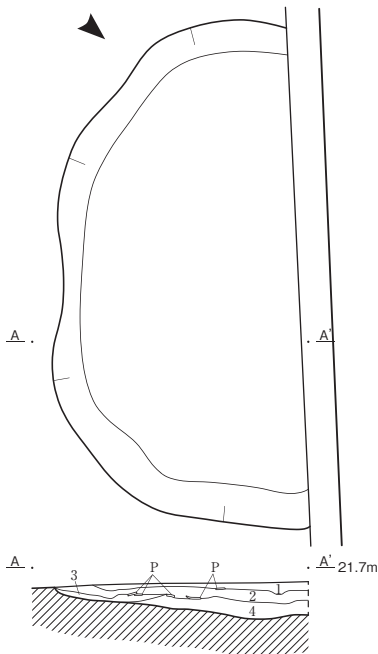


SK5



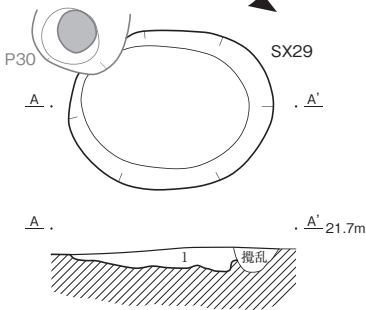
- SK5
1 黄灰色 (25Y4/1) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物少量、地山ブロック少量、小礫少量含む。

SK28



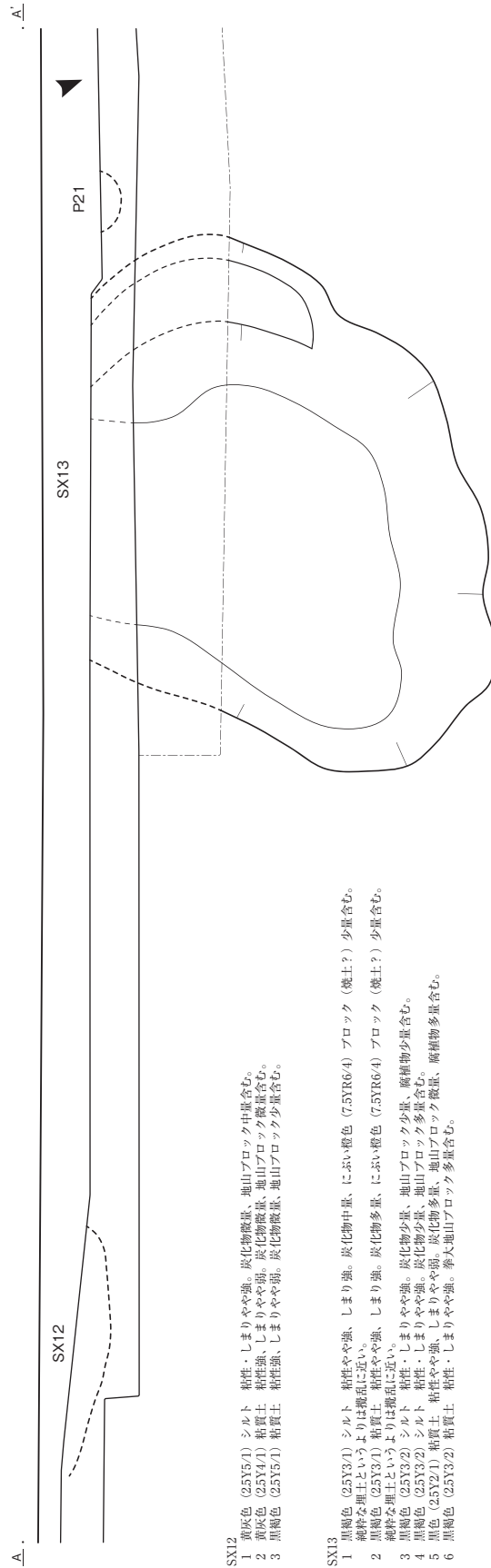
- SK28
1 黄灰色 (25Y4/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物少量、地山ブロック中量含む。
2 黒褐色 (25Y3/1) 粘質土 粘性やや強、しまりやや弱。炭化物多量、地山土及び砂粒筋状に含む。
3 黄灰色 (25Y5/1) シルト 粘性やや弱、しまりやや強。炭化物少量、地山ブロック少量含む。
4 灰色 (5Y5/1) 砂質土 粘性やや弱、しまりやや強。炭化物微量含む。

SX29



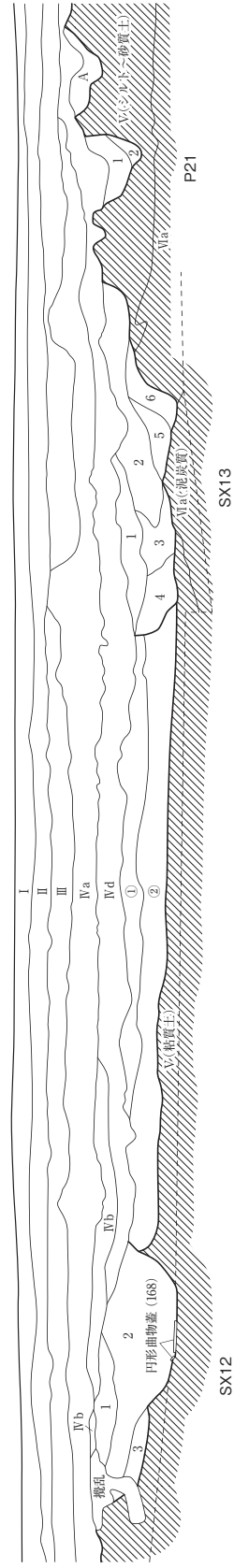
- SX29
1 黄灰色 (25Y5/1) シルト 粘性やや弱、しまり強。炭化物微量、地山ブロック少量含む。

SX12 · SX13 · P21



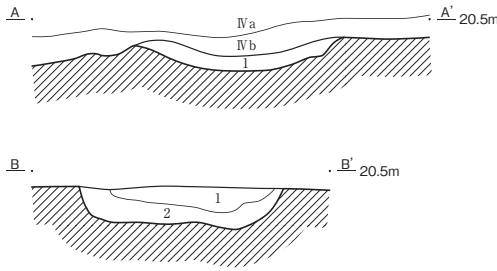
- SX12
1 黄灰色 (25Y5/1) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物微量、地山ブロック中量含む。
2 黄灰色 (25Y4/1) 粘質土 粘性強、しまりやや強。炭化物微量、地山ブロック少量含む。
3 黒褐色 (25Y3/1) 粘質土 粘性強、しまりやや強。炭化物微量、地山ブロック少量含む。
- SX13
1 黒褐色 (25Y3/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物中量、にぶい・橙色 (7.5YR6/4) プロック (焼土?) 少量含む。
2 純粋な埋土というよりは礫混に近い。
3 黒褐色 (25Y3/1) 粘質土 粘性やや強、しまり強。炭化物多量、にぶい・橙色 (7.5YR6/4) プロック (焼土?) 少量含む。
4 純粋な埋土というよりは礫混に近い。
5 黒褐色 (25Y3/2) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物少量、地山ブロック少量、腐植物少量含む。
6 黒褐色 (25Y2/1) 粘質土 粘性・しまりやや強。炭化物多量、地山ブロック微量、腐植物多量含む。
7 黒褐色 (25Y3/2) 粘質土 粘性・しまりやや強。赤大地山ブロック多量含む。

A-A' 21.9m



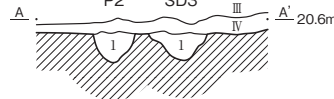
- A 灰色 (5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。黄灰色 (25Y5/1) 土多量、地山ブロック多量含む。
※遺構が否か判断としない。
※①・②層とも自然堆積土で遺物は含まない。
- P21
1 灰色 (5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。黄灰色 (25Y5/1) 土多量、地山ブロック多量含む。
2 黄灰色 (25Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。地山ブロック多量含む。
- ① 灰オリーブ色 (5Y6/2) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物微量、腐植物中量含む、V層に似るが、臭味が若干強い。
② 黒褐色 (25Y3/2) シルト 粘性やや強、しまりやや強。砂質土が筋状に混ざる。腐植物多量含む、Va層に似る。

SD1



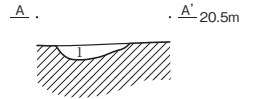
- SD1
 1 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性・しまりやや弱。炭化物微量、腐植物微量、細砂多量含む。1区で古代遺物がまともに出土。
 2 灰色 (5Y5/1) 砂質土 粘性・しまりやや弱。

SD3・P2



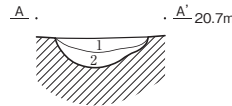
- SD3
 1 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物中量、地山ブロック中量含む。
 P2
 1 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物中量、地山ブロック少量含む。

SD15



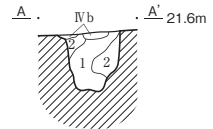
- SD15
 1 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物少量、地山ブロック多量含む。

SD16



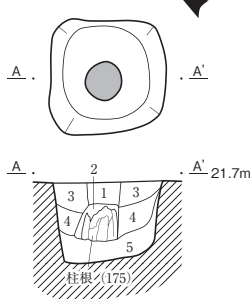
- SD16
 1 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物中量含む。
 2 灰色 (5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまりやや弱。地山ブロック中量含む。

SD25



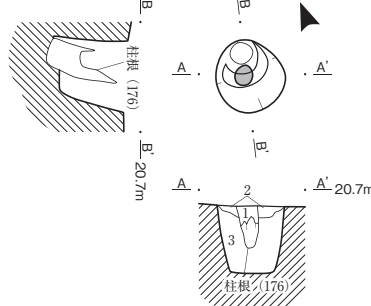
- SD25
 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土 粘性やや強、しまりやや弱。炭化物少量、地山ブロック微量含む。IVb層由来(攪乱か)。
 2 灰色 (5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物少量、黄灰色 (2.5Y4/1) 土筋状・ブロック状で多量含む。本来の埋土か。

P11



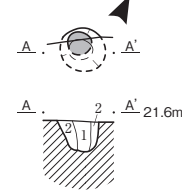
- P11
 1 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物少量、黄灰色 (2.5Y4/1) 土多量、地山ブロック少量含む。柱痕。
 2 暗灰色 (2.5Y4/2) 粘質土 粘性強、しまりやや弱。地山ブロック少量含む。柱痕(柱根あり)。
 3 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物微量、黄灰色 (2.5Y5/1) 土中量含む。掘方埋土。
 4 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物微量、地山ブロック多量含む。掘方埋土。
 5 オリーブ灰色 (2.5GY6/1) シルト 粘性やや強、しまり強。黄灰色 (2.5Y5/1) 土中量含む。掘方埋土。

P18



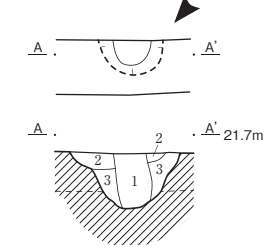
- P18
 1 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性やや強、しまり弱。柱痕(柱根あり)。
 2 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性やや強、しまりやや弱。地山ブロック少量含む。掘方埋土。
 3 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性やや弱、しまりやや強。地山ブロック多量含む。掘方埋土。

P20



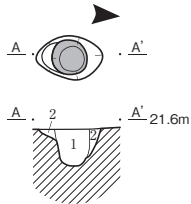
- P20
 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土 粘性・しまりやや強。炭化物少量、地山ブロック少量含む。柱痕。
 2 灰色 (5Y5/1) 砂質土 粘性やや弱、しまりやや強。1層土少量含む。掘方埋土。

P23



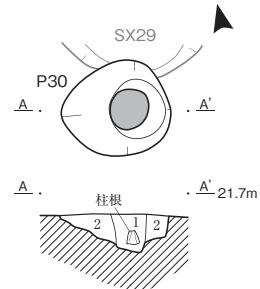
- P23
 1 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物微量、地山ブロック少量含む。柱痕。
 2 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。地山ブロック多量含む。掘方埋土。
 3 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物微量、地山ブロック少量含む。掘方埋土。

P24



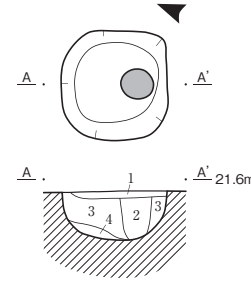
- P24
 1 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物微量、地山ブロック少量含む。柱痕。
 2 灰色 (5Y5/1) 砂質土 粘性弱、しまり強。1層土少量含む。掘方埋土。

P30



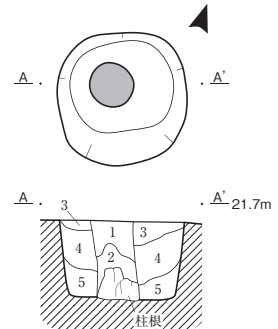
- P30
 1 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物少量、地山ブロック微量含む。柱痕(柱根あり)。
 2 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物微量、地山ブロック多量含む。掘方埋土。

P31



- P31
 1 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物微量、地山ブロック少量含む。
 2 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性・しまりやや強。炭化物微量、地山ブロック微量含む。柱痕。
 3 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物微量、地山ブロック中量含む。掘方埋土。
 4 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性・しまりやや強。地山ブロック多量含む。掘方埋土。

P33

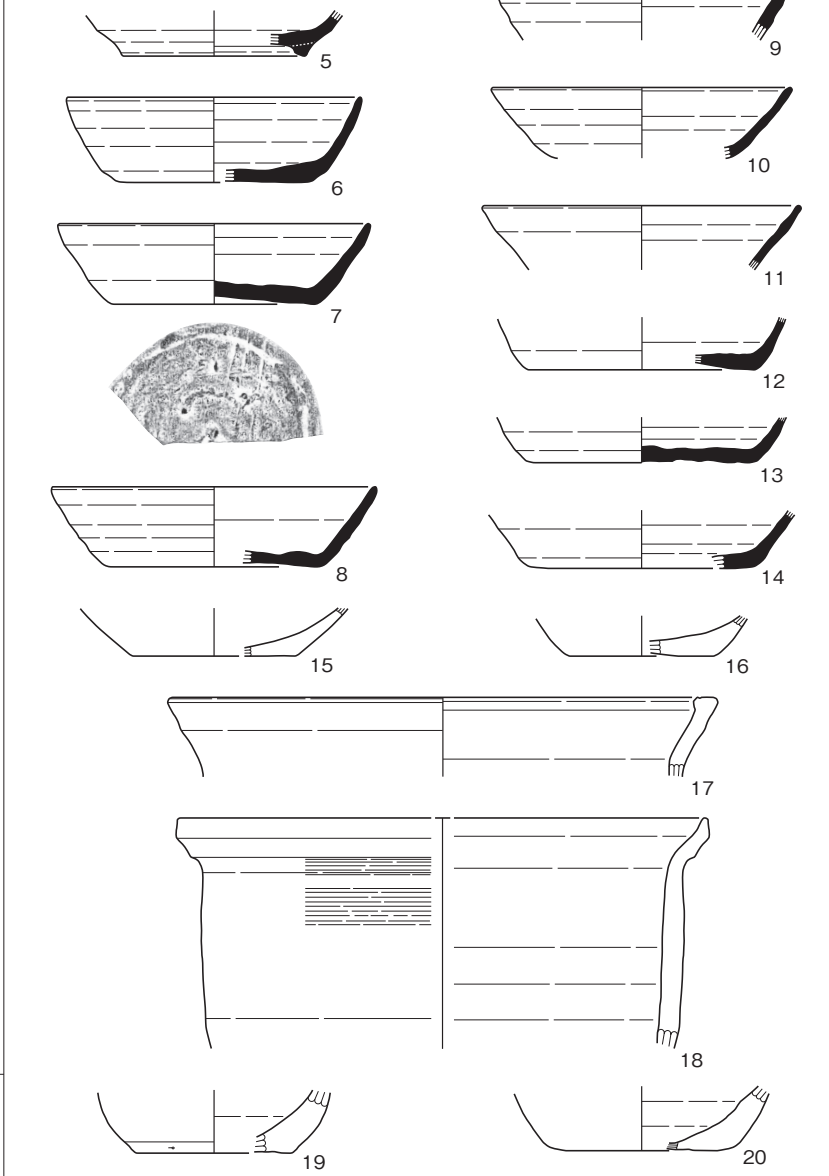


- P33
 1 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物微量、地山ブロック中量含む。柱痕。
 2 暗灰色 (2.5Y4/2) 粘質土 粘性・しまりやや強。炭化物微量、地山ブロック少量、腐植物少量含む。柱痕(柱根あり)。
 3 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。地山ブロック多量含む。掘方埋土。
 4 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物微量、地山ブロック少量含む。掘方埋土。
 5 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘性やや強、しまり強。炭化物微量、地山ブロック少量含む。掘方埋土。

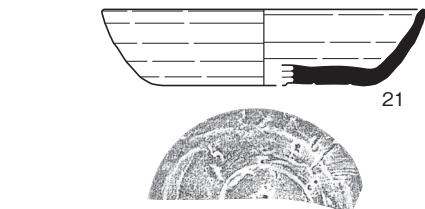
SK28 (1~4)



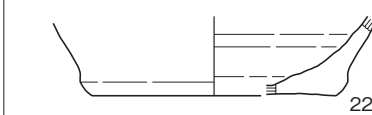
SD1 (5~20)



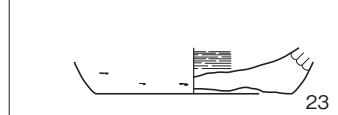
SD15 (21)



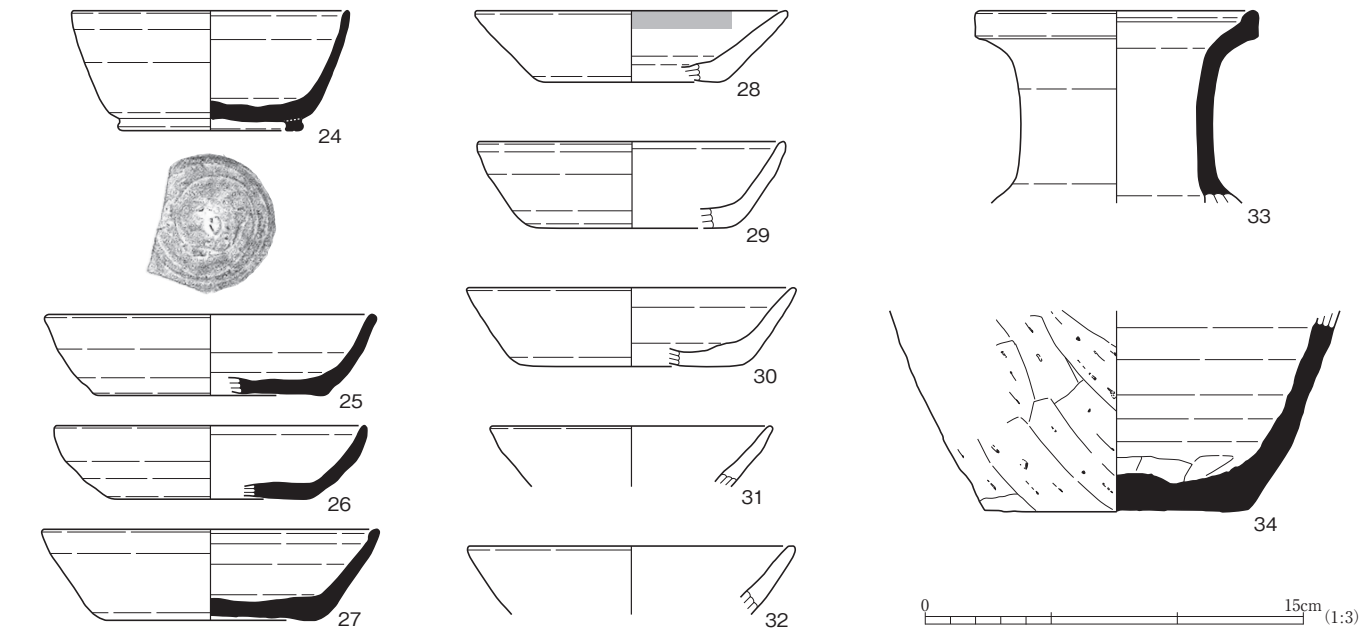
P9 (22)



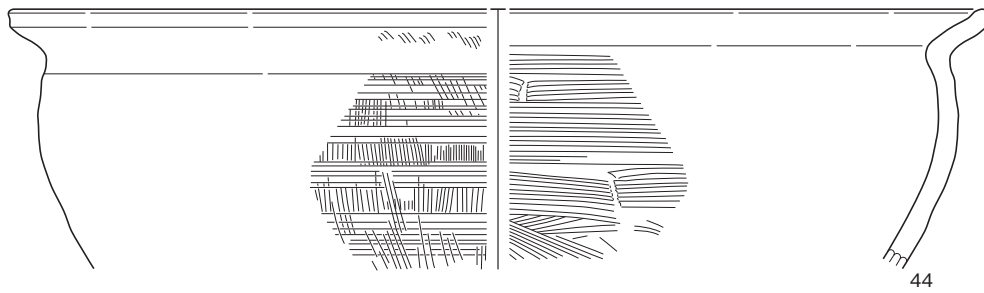
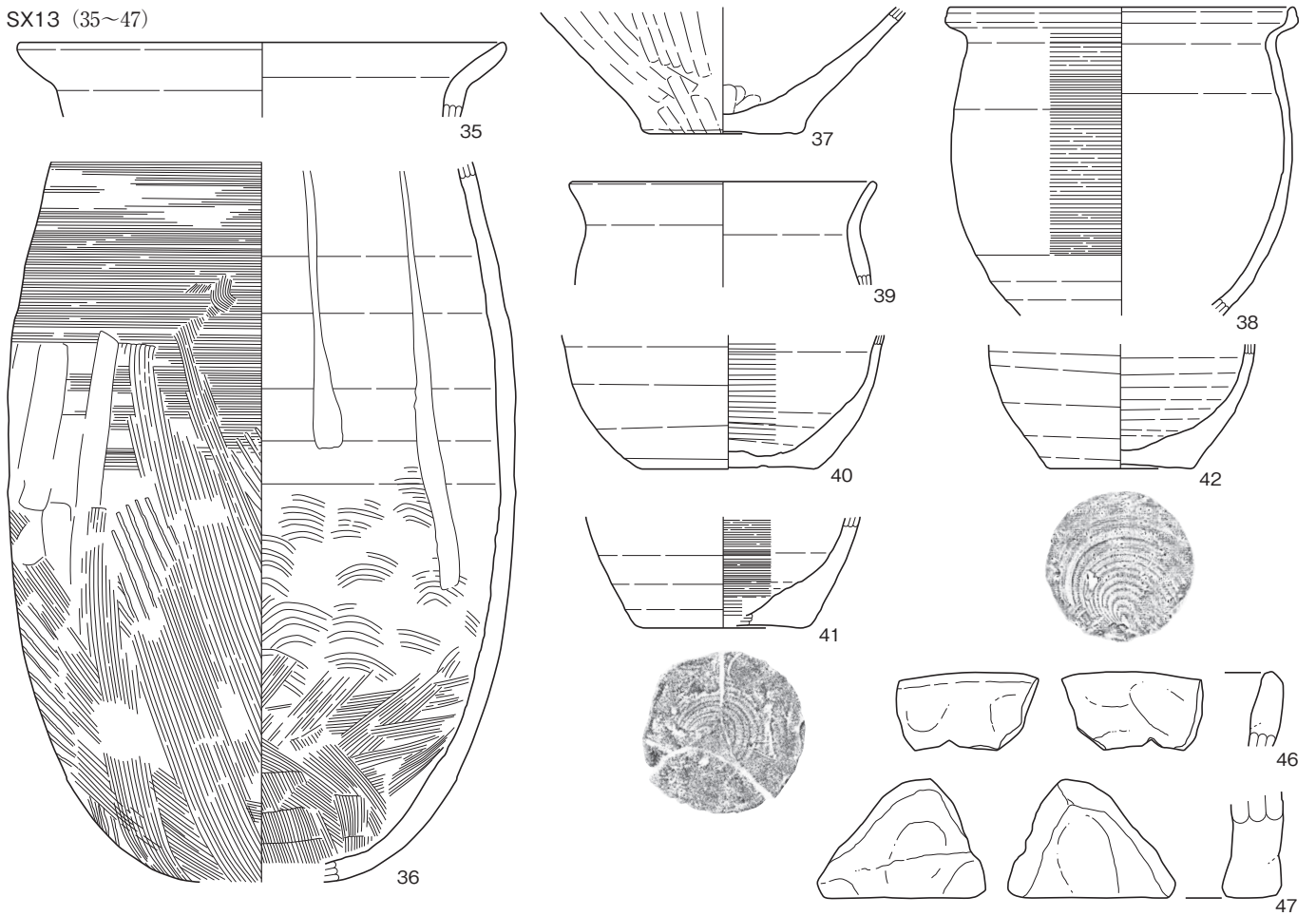
P17 (23)



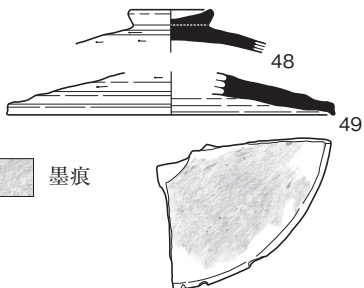
SX13 (24~34)



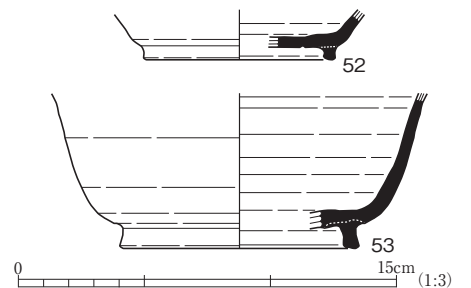
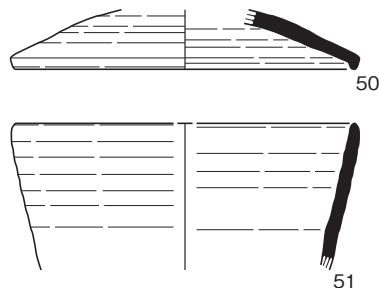
SX13 (35~47)



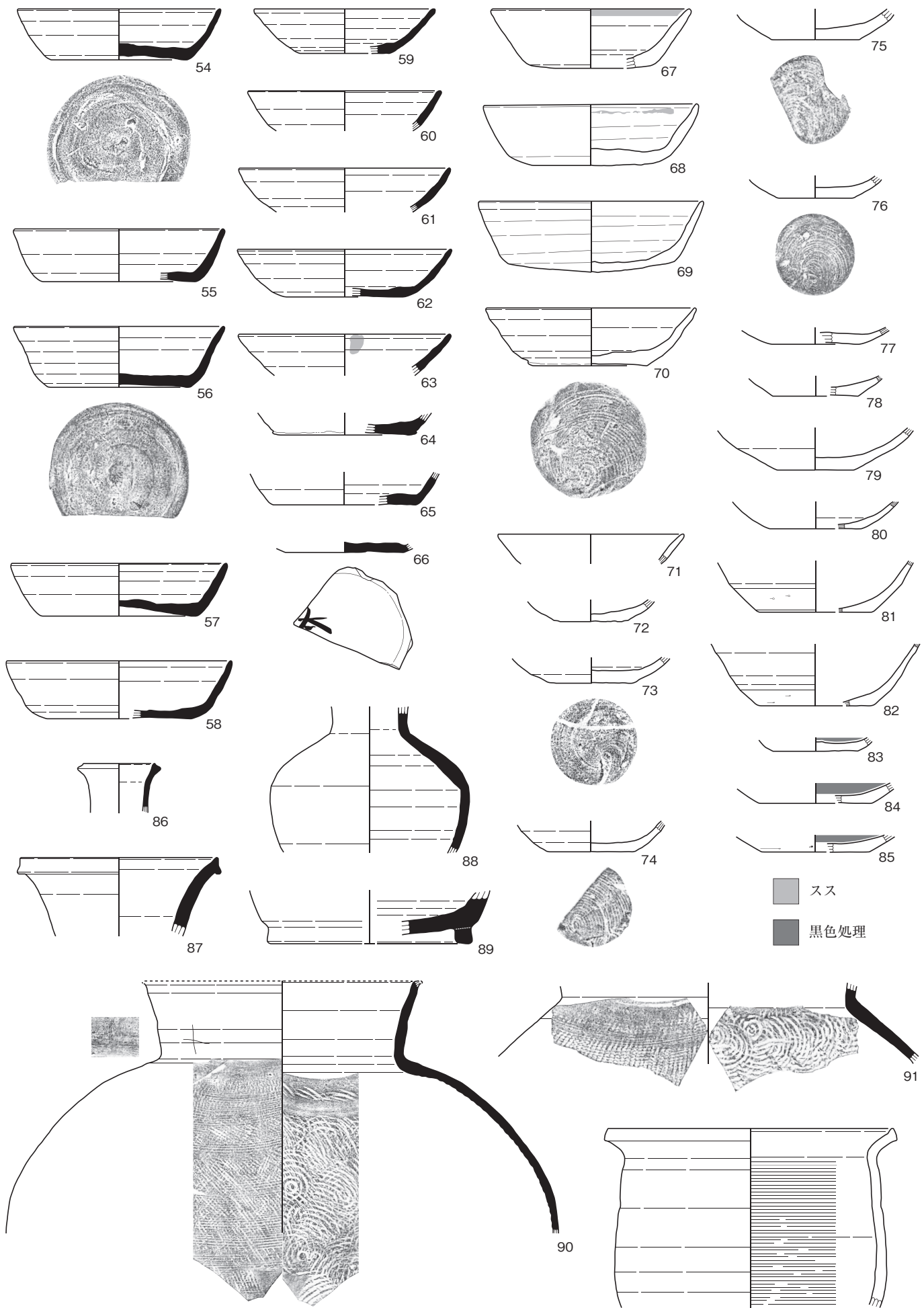
遺構外 (SX13周辺IV層) (48~53)



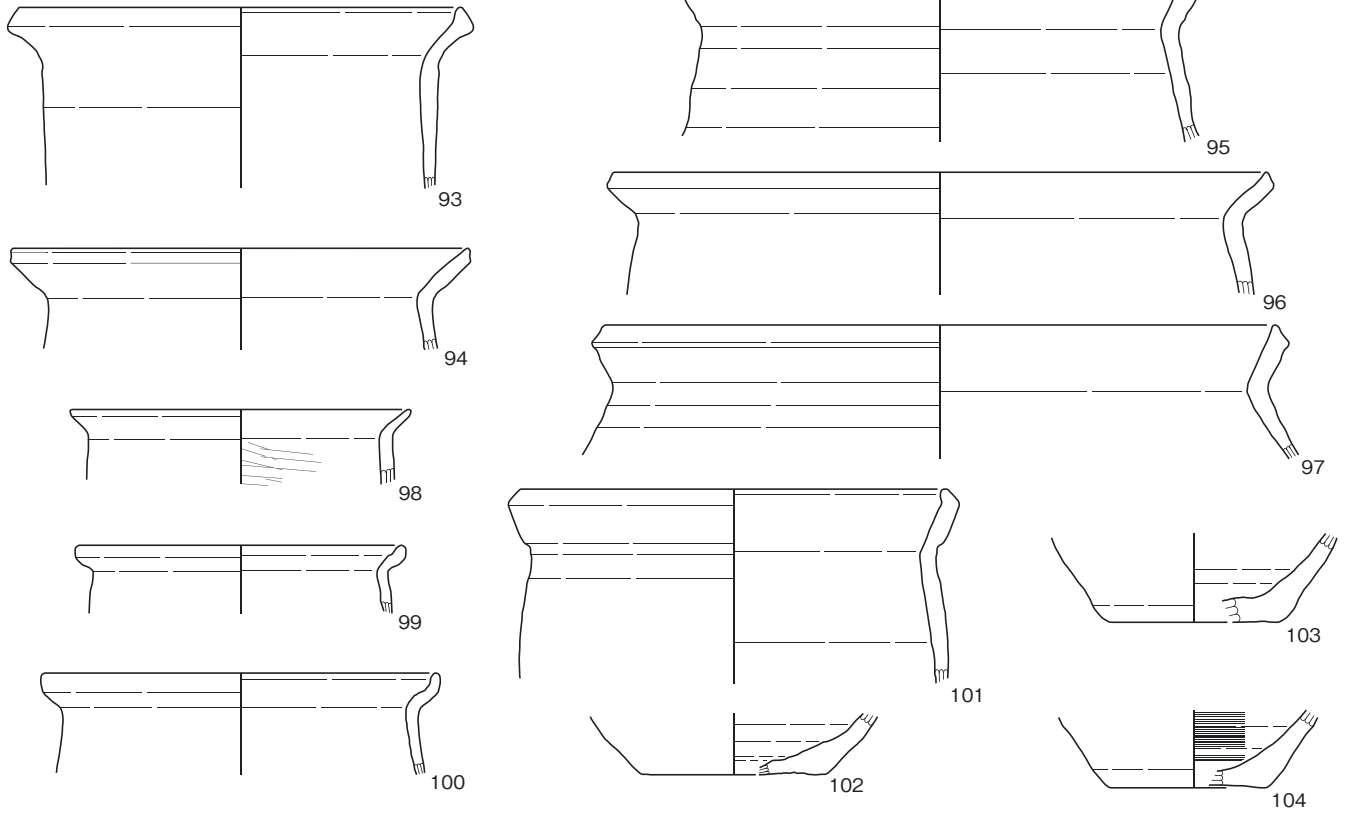
■ 墨痕



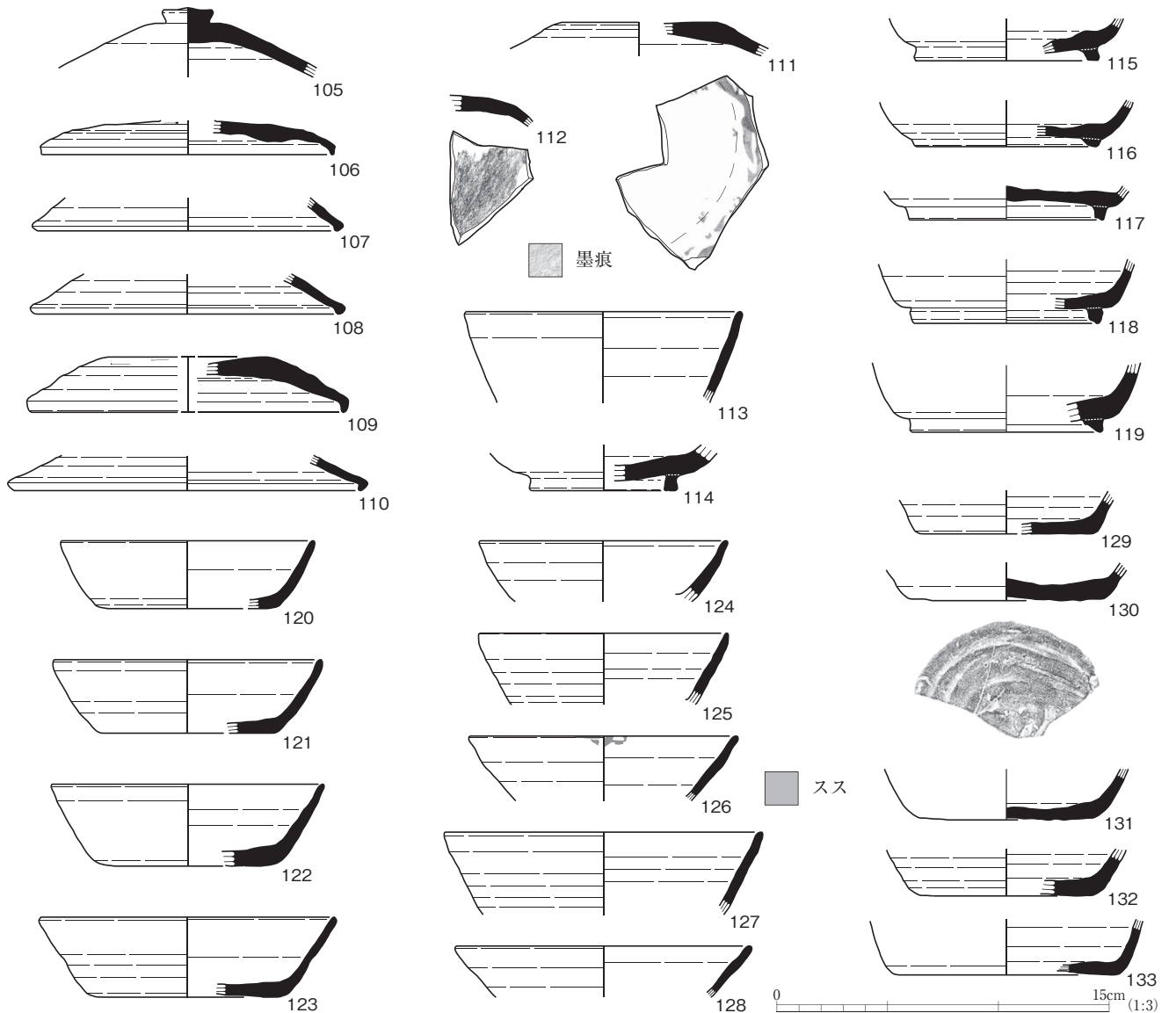
遺構外 (SX13周辺IV層) (54~92)



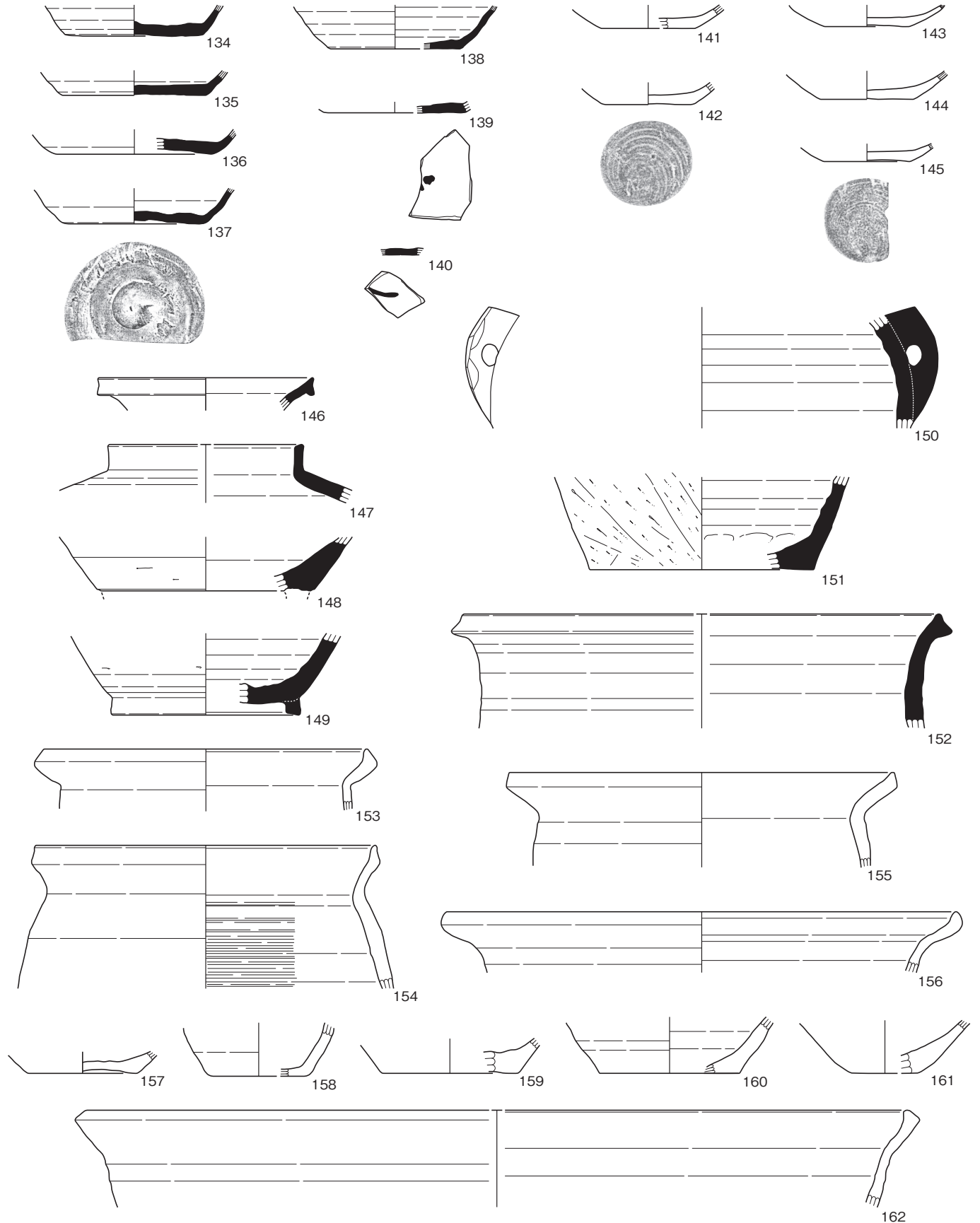
遺構外 (SX13周辺IV層) (93~104)



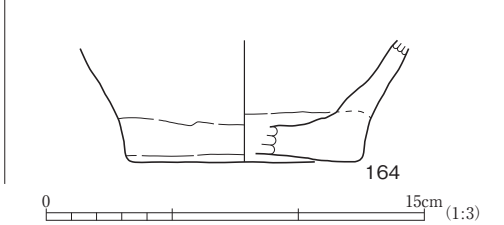
遺構外 (IV層) (105~133)



遺構外 (IV層) (134~163)



遺構外 (V層) (164)

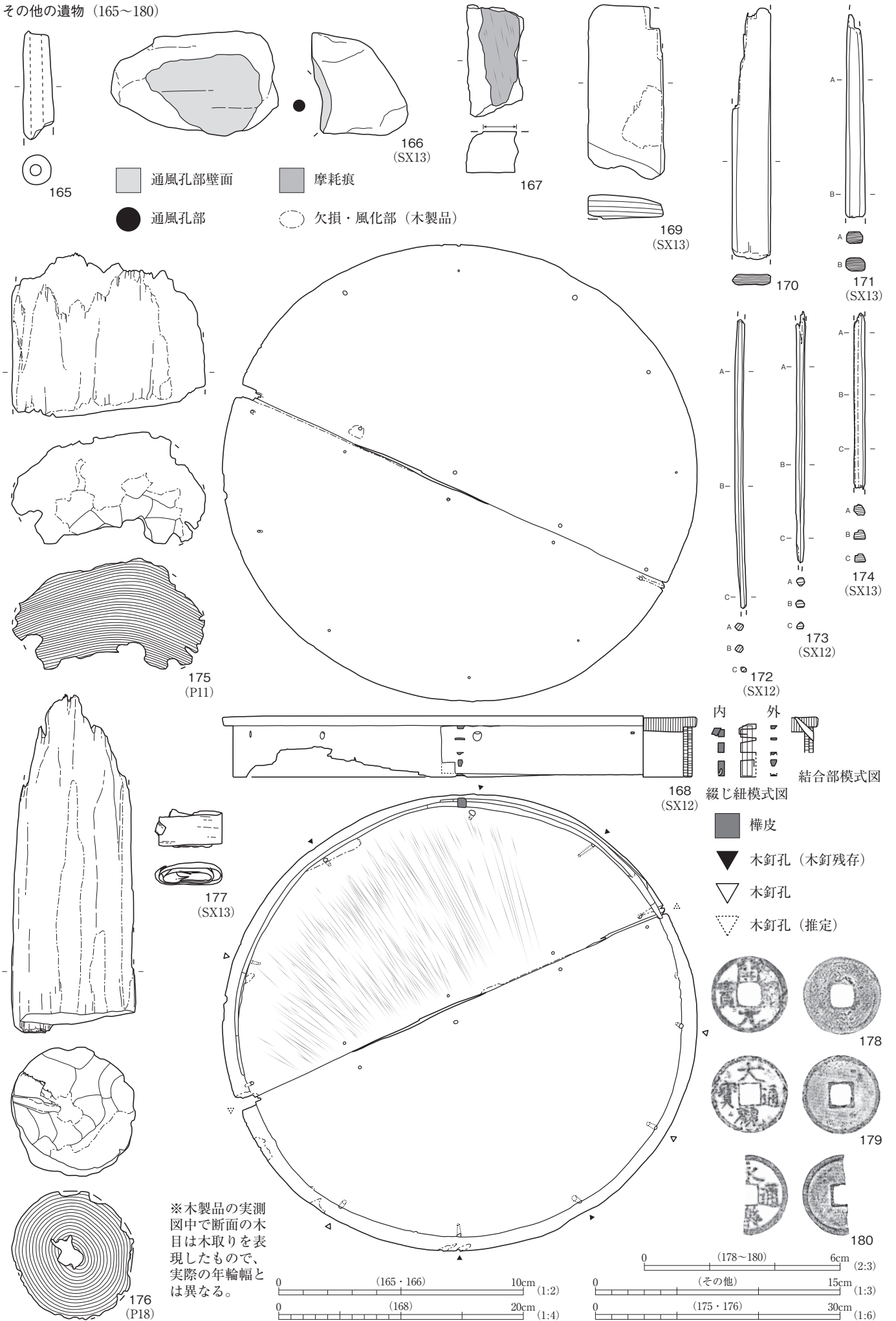


163

164

0 15cm (1:3)

その他の遺物 (165~180)





遠景 南から(弥彦山を望む)



遠景 南西から(信濃川を望む)



全景直下 上が北



着手前 東から



表土除去 東から



基本層序 北西から (柱状図①)



基本層序 北から (柱状図③)



基本層序 北から (柱状図⑤)



基本層序 北東から (柱状図⑦)



基本層序 西から (柱状図⑨)



SK28 遺物出土状況 南東から



SX12 遺物出土状況 西から



SX13 遺物出土状況 南から



SK28 セクション 北東から



SX12 セクション・遺物出土状況 北から



SX13 セクション 北から



SD1 遺物出土状況 東から



SD1 セクション A-A' 北東から



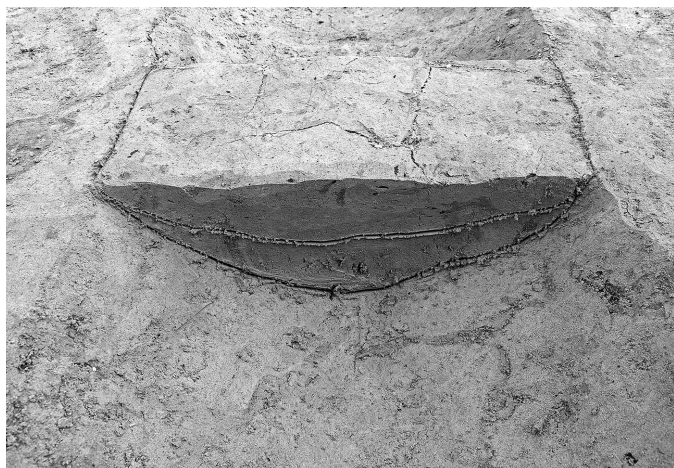
SD1 セクション B-B' 南から



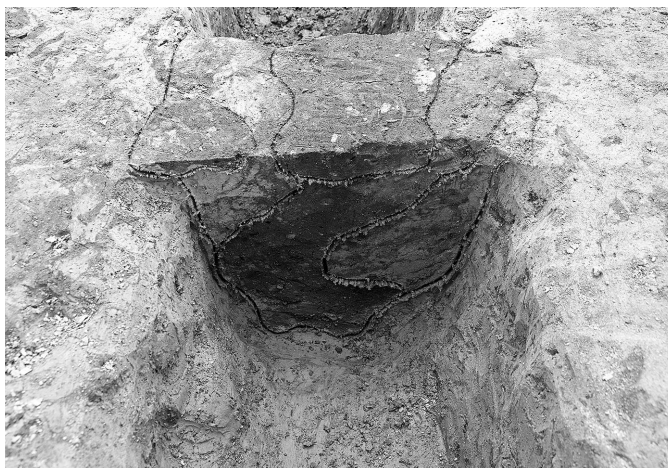
SD15 セクション 南東から



SD15 遺物出土状況 北西から



SD16 セクション 北から



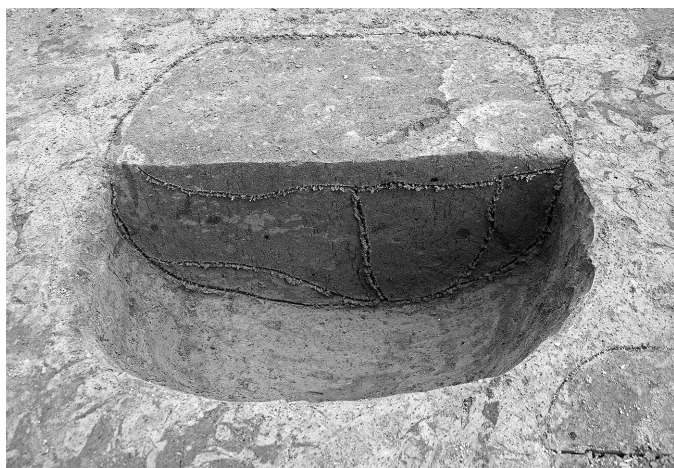
SD25 セクション 北西から



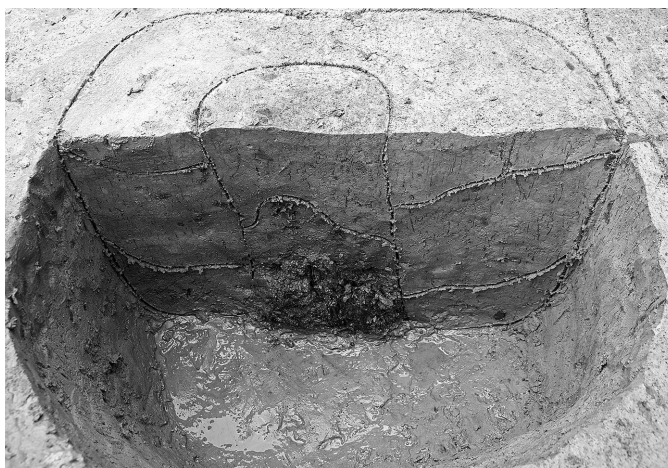
P11 セクション 南西から



P18 遺物出土状況 南東から



P31 セクション 西から



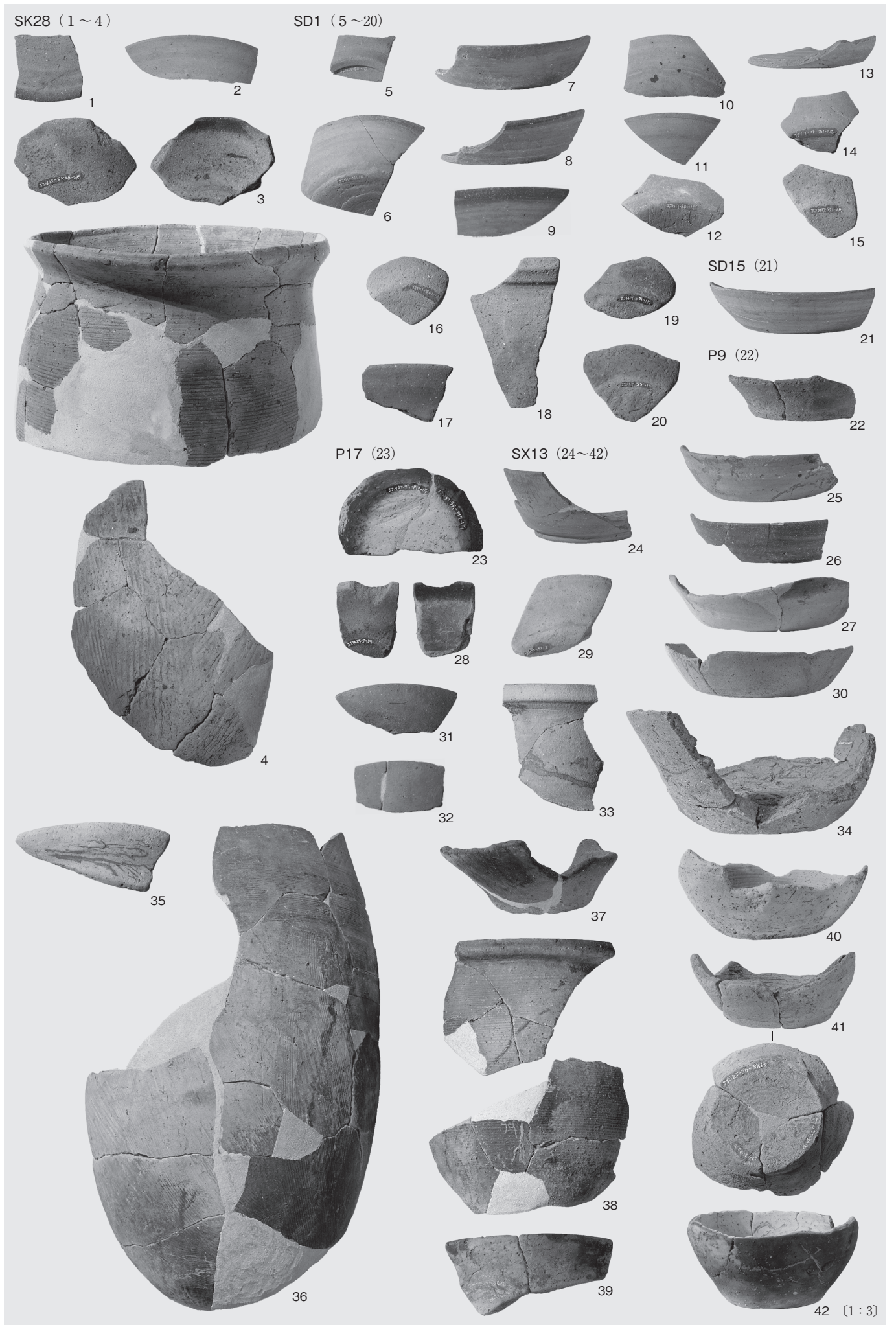
P33 セクション 南東から



大河津小学校発掘調査体験



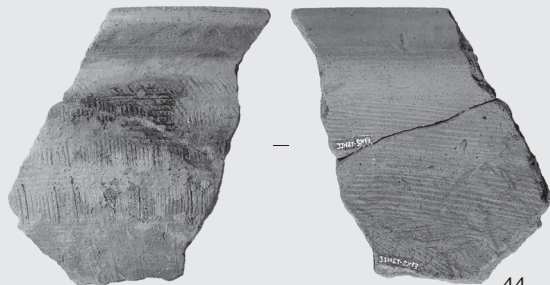
調査に参加してくださった皆さん



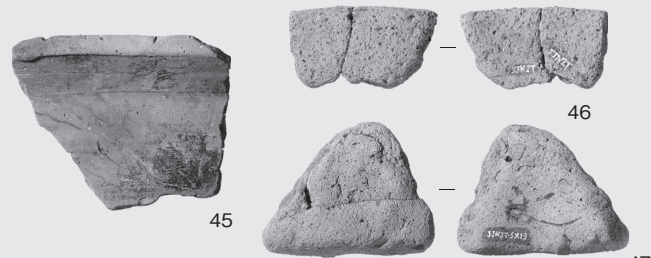
SX13 (43~47)



43



44



45

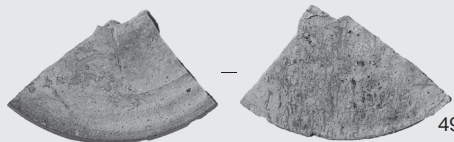
46

47

遺構外 (SX13周辺IV層) (48~91)



48

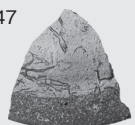


49



54

56

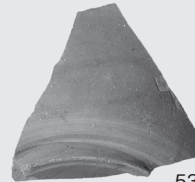


50



51

52



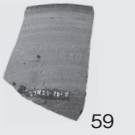
53



55

57

58



59



60



61

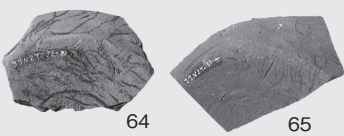


62



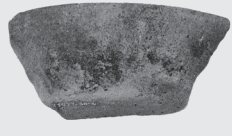
63

64

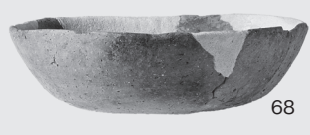


65

66



67



68



69



70



71



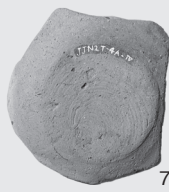
73



74



75



76



77



72



78

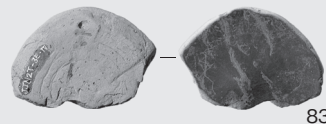


79

80



81



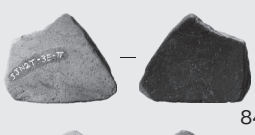
83



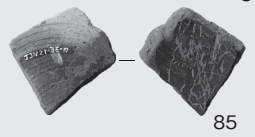
90: 刻印部拡大



82



84



85



86



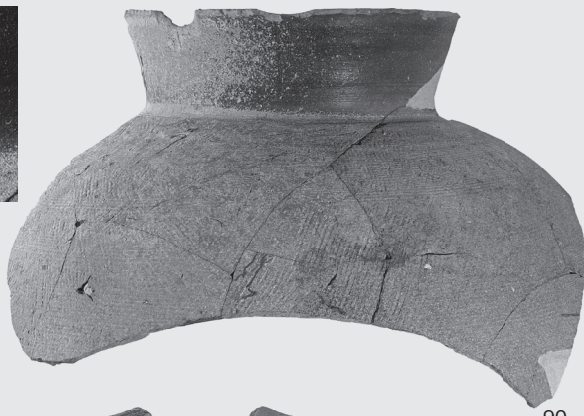
87



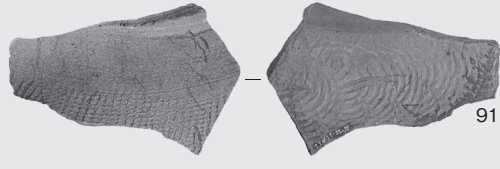
88



89



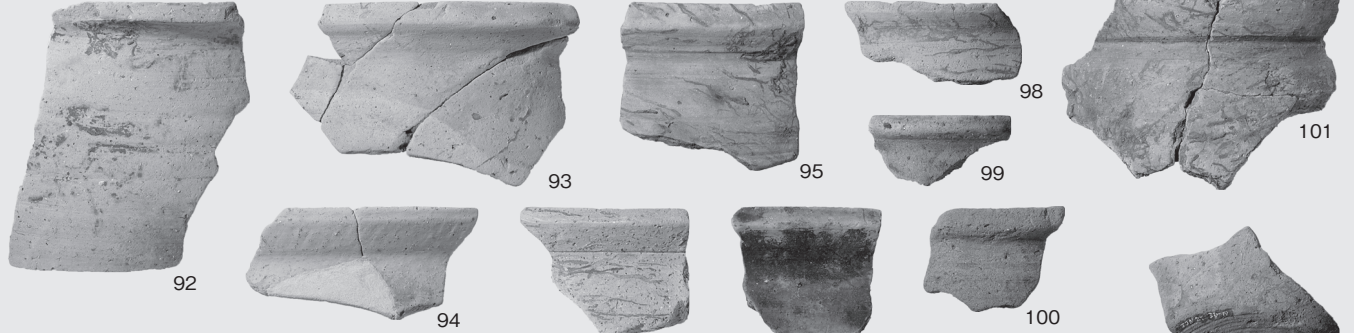
90



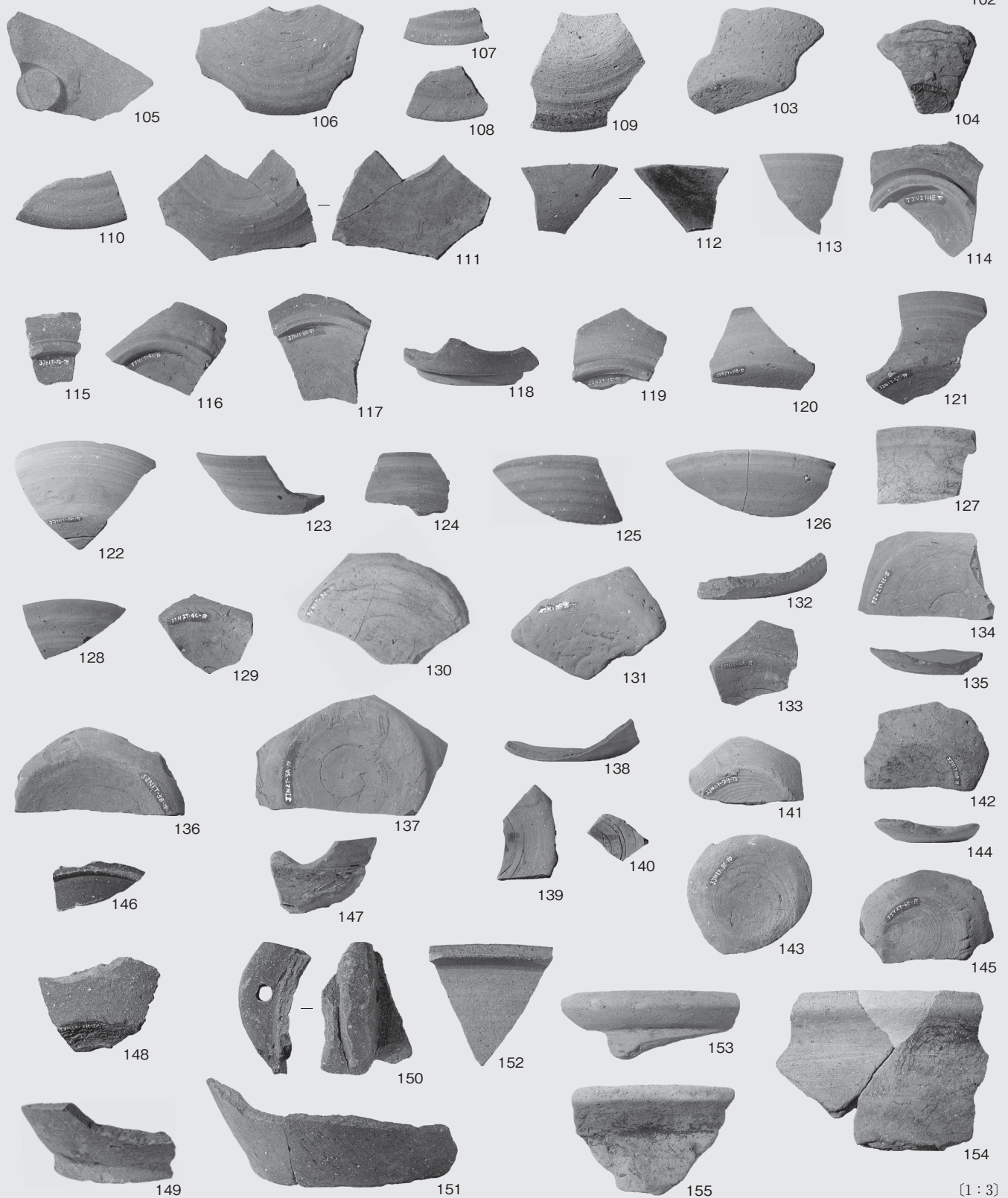
91

その他 [1:3]
90・91 [1:4]

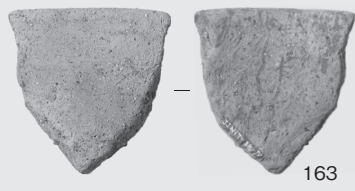
遺構外 (SX13周辺IV層) (92~104)



遺構外 (IV層) (105~155)



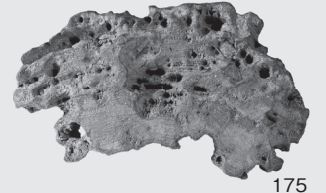
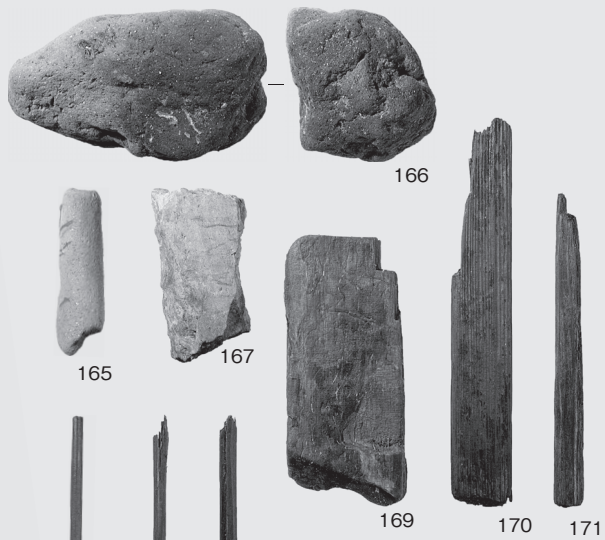
遺構外 (IV層) (156~163)



その他の遺物 (165~180)



遺構外 (V層) (164)



178~180 [2:3]
 165・166 [1:2]
 その他 [1:3]
 168 [1:4]
 175・176 [1:6]

報告書抄録

ふりがな	じょうじめんにしいせき							
書名	城地免西遺跡							
副書名	県営経営体育成基盤整備事業（平野新地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	加藤由美子（長岡市教育委員会） 南波 守（株式会社大石組）							
編集機関	長岡市教育委員会							
所在地	〒940-0084 新潟県長岡市幸町2丁目1番1号 TEL0258-32-0546							
発行年月日	2024年3月8日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
じょうじめんにしいせき 城地免西遺跡	にいがたけんながおかし 新潟県長岡市 てらどまりたじりほか 寺泊田尻434他	15021	1500	37° 35' 24"	138° 48' 56"	20220704 ～ 20220831	450㎡	県営経営体育成基盤整備事業 (平野新地区)
所収遺跡名	種別	主な時期		主な遺構		主な遺物		特記事項
城地免西遺跡	遺物包含地	古代		土坑・溝・ピット		縄文土器・土師器・須恵器・土製品・石製品・木製品・鍛冶関連遺物・銭貨		墨書土器3点のほか転用硯が出土。

城地免西遺跡

県営経営体育成基盤整備事業（平野新地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和6（2024）年3月8日 印刷

令和6（2024）年3月8日 発行

発行 新潟県長岡市教育委員会

印刷 あかつき印刷株式会社
